

# 陣が平西2号遺跡発掘調査報告書

- (仮) Fマンション敷地造成工事に係る発掘調査 -

一一〇一五

# 陣が平西 2 号遺跡発掘調査報告書

- (仮) F マンション敷地造成工事に係る発掘調査 -

2 0 1 5

東広島市教育委員会



遺跡全景（北から）

## は　し　が　き

広島県のほぼ中央に位置する東広島市は、「未来にはばたく国際学術研究都市－ともに育み、人が輝くまち－」を将来の都市像とし、環境と調和した生活しやすいまち、魅力ある住環境の整ったまちなどの目標を掲げ、その施策の中で住みよい都市空間の形成を目指しているところです。また、広島大学の統合移転などにより大学・試験研究機関や先端技術産業の集積を図ることで、研究者、技術者などの知的人材の蓄積、学生、留学生の定着にもつながり、多様な市民が集う人材力が豊富な都市として成長しているところです。

近年、西条町下見周辺は、個人住宅や学生アパートなどの建設による市街化が進められている地域あります。

このたび、西条下見五丁目において（仮）Fマンション敷地造成工事により、陣が平西2号遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、市内では初めての貼石墳丘墓を確認し、埋葬の儀式の際に供献されたと思われる弥生土器などが出土しました。そのほか、木棺墓群なども確認されています。この木棺墓群からも石製品（石鏡）などが出土しました。こうした発見により、当地域の人々が弥生時代中期末から後期始め頃には、三次盆地を中心とした江の川流域の人々と交流をしていたことが窺われます。

今回の発掘調査により、当該地域における今後の調査研究に貴重な資料を提供してくれたものと言えます。

本報告書が、郷土の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と关心をより一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施・報告書の刊行にあたり、関係各機関並びに地元関係者各位には、多大な御協力と御理解をいただきました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

東広島市教育委員会  
教育長 下川聖二

## 例　　言

1. 本書は、平成25（2013）年度に東広島市教育委員会が発掘調査を実施した陣が平西2号遺跡（東広島市西条下見五丁目）の発掘調査報告書である。
2. 株式会社フラッグコーポレーション代表取締役宮川浩明からの委託により、発掘調査（現地作業）及び基礎整理と整理作業（報告書刊行）までの全てを東広島市教育委員会で実施した。
3. 発掘調査・基礎整理、整理作業（報告書刊行）は、東広島市教育委員会の主査植田広と埋蔵文化財調査員杉原弥生が行った。
4. 遺構の写真撮影・実測・製図・遺物の実測・製図は植田と杉原が、遺物の写真撮影は杉原が行った。
5. 本書の執筆は、植田が（I、III、IV、V）を杉原が（II、遺物観察表）を執筆し、植田が編集した。
6. 空中写真撮影業務は、株式会社四航コンサルタントに委託した。
7. 第1図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図「海田市」「竹原」を使用した。  
第2図は、東広島市発行の東広島市地形図「Q-8」1/2,500を使用した。
8. 第11～13図及び第2表のデータは、「Vまとめ」の広島県内出土曲刃鎌参考文献中の報告書から転載し、縮尺を3分の1に統一したものを加筆・修正した。
9. 遺物実測図に付した遺物番号と写真図版に付した遺物番号は同一である。
10. 本書で使用した方位は、第1図が旧平面直角座標第Ⅲ系座標北で、他が世界測地系座標北（平面直角座標第Ⅲ系）である。
11. 調査で得られた遺物、図面、写真等の資料は、すべて東広島市教育委員会で保管している。
12. 本書に使用した遺構の表示記号は次のとおりである。  
SK：木棺墓・石蓋土坑墓・土坑墓・土坑 SD：溝状遺構

# 陣が平西2号遺跡発掘調査報告書

## 目 次

I はじめに.....	1
II 位置と環境.....	2
III 調査の概要.....	8
IV 遺構と遺物.....	10
V まとめ.....	21

### 奥付・抄録

## 挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1:25,000) .....	3
第2図 遺跡位置図 (1:2,500) .....	8
第3図 遺構配置図 (1:200) .....	9
第4図 貼石墳丘墓実測図 (1:80) .....	11
第5図 SK1・SK3・SK4遺構実測図 (1:30) .....	12
第6図 SK2遺構実測図 (1:30) .....	14
第7図 木棺墓群実測図 (1:60) .....	16
第8図 SK5・SK6遺構実測図 (1:30) .....	17
第9図 SK7・SK8・SK9遺構実測図 (1:30) .....	18
第10図 遺物実測図 (1~10は1:3、11は1:1) .....	19
第11図 広島県内出土曲刃鎌 (弥生時代) (1:3) .....	25
第12図 広島県内出土曲刃鎌 (古墳時代1) (1:3) .....	26
第13図 広島県内出土曲刃鎌 (古墳時代2) (1:3) .....	27

## 図版目次

- 図版1 a 貼石墳丘墓検出状況（南南西から）  
b 貼石検出状況（北から）  
c 貼石東西土層断面（南南西から）  
d SK1完掘（北東から）
- 図版2 a 貼石墳丘墓完掘（南から）  
b 貼石墳丘墓東西土層断面（南西から）  
c 遺物出土状況①（東から）  
d 遺物出土状況②（北から）  
e 遺物出土状況③（北から）
- 図版3 a SK2検出状況（東南東から）  
b SK2蓋石検出状況（東南東から）  
c SK2完掘（南南西から）  
d SK2完掘状況（南東から）
- 図版4 a SK5完掘（西北西から）  
b SK6完掘（北から）  
c SK7完掘（西北西から）  
d SK8完掘（西から）  
e 木棺墓群完掘（西から）
- 図版5 出土遺物1
- 図版6 出土遺物2

## 表 目 次

第1表 遺物観察表 .....	20
第2表 広島県内出土曲刃鎌観察表 .....	24

## I　はじめに

平成25年9月10日付けで株式会社フラッグコーポレイション代表取締役宮川浩明(以下、「フラッグ」という。)からマンション建設工事のため「陣が平西2号遺跡」の埋蔵文化財の発掘の届け出(土木工事の届出)が、市教委に提出された。

本計画箇所周辺では、過去に何度も開発計画があり、本遺跡は、その過程で確認されていた(以下のとおり)。

開発計画1 平成17年度に別の開発業者(以下「業者」という)が本計画地周辺の宅地開発に伴い文化財の取り扱い協議を行い、試掘調査の結果「陣が平西2号遺跡」が確認されたため、遺跡部分(約350m<sup>2</sup>)を緑地で保存し、他の箇所は宅地化された。

開発計画2 平成24年度になり、業者から先の開発事業で緑地として保存した遺跡部分とその西側部分(前回の開発事業地外)の開発計画があり、文化財の取り扱い協議書が提出され、試掘調査を実施した結果、先の保存区域とそれに接する700m<sup>2</sup>が「陣が平西2号遺跡」の範囲であることが確認された。

フラッグから提出された土木工事の届け出は、陣が平西2号遺跡のうち、開発計画1で緑地保存された350m<sup>2</sup>を除いた部分について開発を行うとの届け出であった。届け出に対し、市教委は同年9月18日付けで事前に発掘調査を実施するようフラッグに通知した。

同年10月11日付けでフラッグは、市教委に対し埋蔵文化財の発掘調査を依頼し、これを受けた市教委は同年11月25日付けで、陣が平西2号遺跡のうち、今回の開発事業地にかかる350m<sup>2</sup>についての発掘調査を実施することを承諾した。

その後、同年12月24日付けで発掘調査(現地調査)について業務委託契約を締結するとともに、発掘調査(現地調査)の実施が年度末となるため、整理作業及び報告書刊行については、平成26年度で実施する旨の覚書を取り交わした。発掘調査(現地作業)は、平成26(2014)年2月3日から同年3月20日までの期間で実施した。

平成26年度に入り、フラッグから同年4月21日付けで発掘調査(整理作業)実施の依頼が市教委にあり、市教委は、同年5月15日付けでフラッグに発掘調査(整理作業)を実施する旨を回答し、同年5月26日付けで発掘調査(整理作業)の業務委託契約を締結し、整理作業を実施した。

本報告書は、以上のような経過を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。当該地域の歴史の資料として、また埋蔵文化財に対する理解を深める資料として広く活用していただければ幸いである。なお、発掘調査にあたっては、事業者である株式会社フラッグコーポレイションをはじめとして、設計業者のランドコンサルタントに多大な御協力を得、出雲弥生の森博物館館長渡辺貞幸氏、東広島市文化財保護審議会会長脇坂光彦氏、広島大学大学院文学研究科考古学研究室古瀬清秀氏、竹広文明氏、野島永氏、広島大学総合博物館藤野次史氏には、現地での指導をいただいた。また米子市教育委員会下高瑞哉氏には文献資料の提供をいただいた。末筆ながら記して感謝の意を表したい。

## Ⅱ 位置と環境

東広島市は広島県の中央部に位置し、県内4番目の人口を擁する中核都市である。本市は、広島中央テクノポリス構想に基づく都市基盤整備、区画整備事業など、各種の開発事業が進展するとともに、山陽自動車道・山陽新幹線・山陽本線などの大動脈が市内を東西に貫き、高規格道路の呉東広島道路が建設されるなど、交通の要所としても関連開発が進展している。

陣が平西2号遺跡は西条下見五丁目に所在し、西条盆地中央部に位置する。西条盆地は標高200m前後の山間盆地であり、瀬戸内海側と日本海側、中国地方の東西を結ぶ交通の要衝地として古くから重要な位置を占めてきた。また、低平な地形で県内でも有数の遺跡密集地である。

以下、周辺地域の弥生時代を中心とする遺跡の様相について概観する。

### 【旧石器時代】

旧石器時代の遺跡は西条盆地の全域で確認されているが、詳細が明らかになっている遺跡は少ない。広島大学構内の鴻の巣遺跡<sup>(1)</sup>、西ガガラ遺跡第1地点<sup>(2)</sup>と同第2地点<sup>(3)</sup>などの調査が実施されている。西ガガラ遺跡からは、4時期の石器群が検出された。各時期の石器群は遺構とともに検出されており、この時期の集落遺跡の貴重な資料であり、中でも後期旧石器時代中頃とみられる第Ⅲ期にあたる住居跡が6軒確認されている。鴻の巣遺跡では後期旧石器時代初頭に位置付けられる石器群が土坑9基などの遺構とともに検出されている。水晶を主要な石材としており、台形様石器や局部磨製石斧などが出土し、西条盆地では最古のものと考えられている。このほか、山陽自動車道沿いの五楽遺跡や鐘録原池遺跡などで旧石器が採集されている。

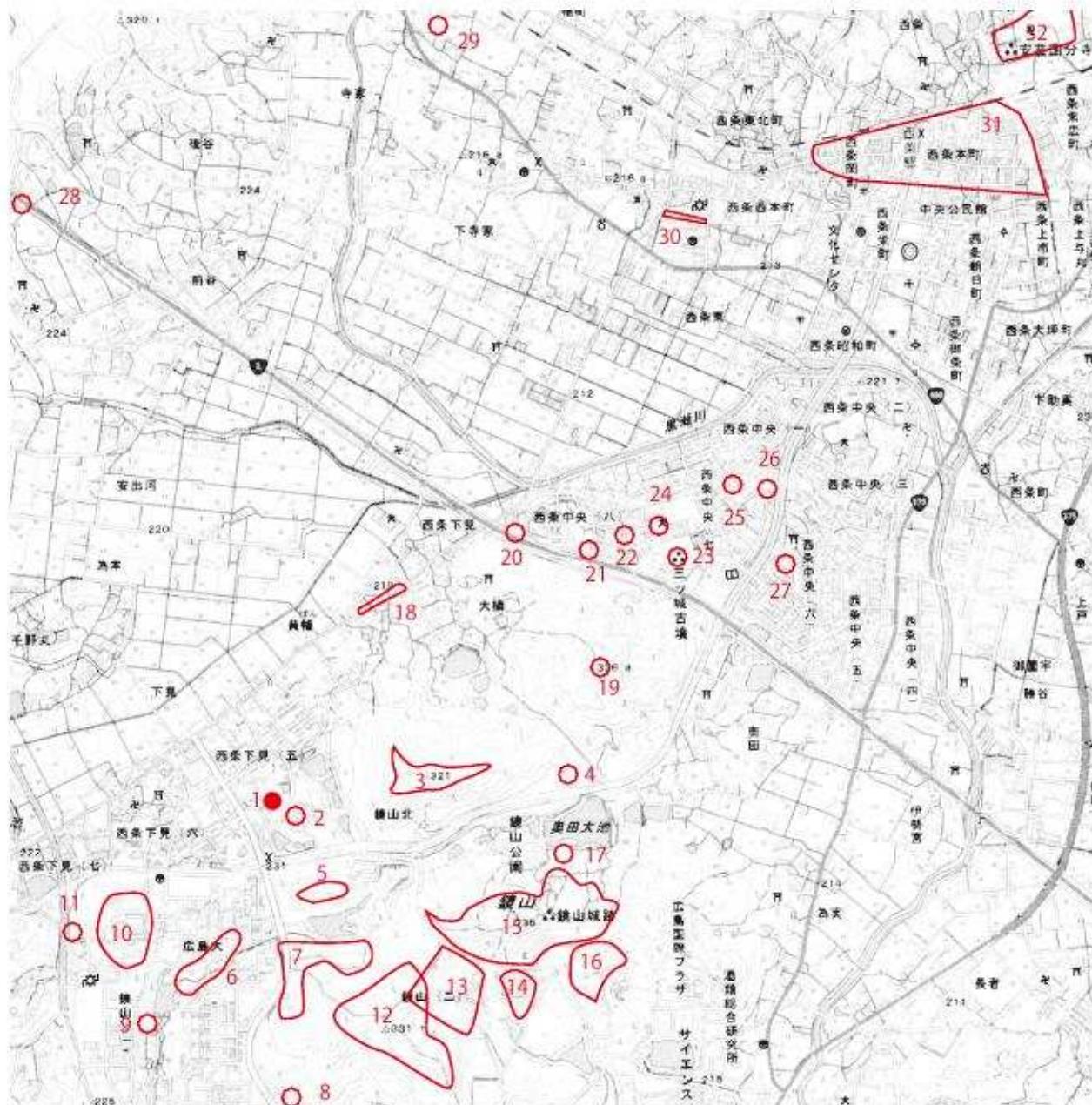
### 【縄文時代】

縄文時代の遺跡については、西ガガラ遺跡第1地点、鴻の巣遺跡、山中池南遺跡第1地点<sup>(4)</sup>、同第2地点<sup>(5)</sup>、同第6地点<sup>(6)</sup>、鴻の巣南遺跡<sup>(7)</sup>、ぶどう池南遺跡第2地点<sup>(8)</sup>、和田平遺跡<sup>(9)</sup>、などがある。西ガガラ遺跡第1地点、鴻の巣遺跡、山中池南遺跡第6地点では、縄文時代早期前半期の条痕文土器や遺構が確認されている。特に、西ガガラ遺跡第1地点では住居跡、鴻の巣遺跡では集石炉、山中池南遺跡第6地点では立石遺構が検出されている。

前期では、山中池南遺跡第2地点、山中池南遺跡第3地点<sup>(10)</sup>で縄文土器、石鏃などの遺物とともに炉跡、土坑などが検出されているが、試掘調査のみで、詳細な時期や遺跡の規模などについては分かっていない。

中期では山中池南遺跡第1地点で中期初頭の船元I式期の集落が調査され、住居跡2軒、炉跡3基、土坑6基などが検出されている。

後期の資料は散発的であり、和田平遺跡では中津式期の良好な資料が出土しているが、遺構は不明である。この他、山中池南遺跡第2地点、同第4地点<sup>(11)</sup>、横ヶ坪3号遺跡A地



1 阵が平西 2 号遺跡	2 阵が平西遺跡	3 阵が平城跡	4 阵が平遺跡	5 山中遺跡	6 平木池遺跡
7 山中池南遺跡	8 西ガガラ遺跡	9 鴻の巣南遺跡	10 鴻の巣遺跡	11 鴻の巣古墳	12 鏡山城(ガガラ地区)
13 鏡西谷遺跡	14 鏡東谷遺跡	15 鏡山城跡	16 鏡千人塚遺跡	17 奥田大池古墳	18 黄幡 1 号遺跡
19 八幡山城跡	20 大槀 3 号古墳	21 大槀 2 号遺跡	22 助平 2 号遺跡	23 三ッ城古墳	24 助平 1 号遺跡
25 助平 3 号遺跡	26 古市 1 号遺跡	27 狐が城跡	28 金平山遺跡	29 友松 3 号遺跡	30 小西遺跡
31 四日市遺跡	32 史跡安芸国分寺跡				

第 1 図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

区<sup>12</sup>などで遺物が出土しているが、纏まった資料は確認されていない。

### [弥生時代]

弥生時代の遺跡については、これまで多くの遺跡が確認されているが、中期後半以前の遺跡は非常に少ない。前期では友松3号遺跡<sup>13</sup>、藤が迫1号古墳墳丘下<sup>14</sup>、貞付谷遺跡<sup>15</sup>、前期～中期では黄幡1号遺跡<sup>16</sup>、小西遺跡<sup>17</sup>、などがあり、いずれも前期後半に位置付けられる。黄幡1号遺跡では木樋を伴った水路遺構が検出されている。水路遺構の埋土や水路遺構の下層から前期後半～中期を主体とする多量の弥生土器や木器などが出土している。水路遺構下層の出土土器の様相から中期前半～中期後半の早い段階に構築されたものと推定されている。小西遺跡は前期後半から中期を主体とする遺跡であるが、土坑・溝や自然流路から少量の弥生土器が出土している。

中期では大槻1号遺跡<sup>18</sup>、鴻の巣遺跡、小越遺跡<sup>19</sup>、助平2号遺跡<sup>20</sup>、などがあり、西条盆地各地に点在している。中でも鴻の巣遺跡からは住居跡が検出されており、中期前葉のものとみられる石鎌やスクレーパー、敲石などが出土し集落の様相の一端を窺い知ることができる。黄幡1号遺跡や小西遺跡のように前期後半から連続するもの、助平2号遺跡など、中期中葉後半に集落の形成が始まり後期まで集落が存在するもの、中山池南遺跡第6地点などの当該時期の単独遺跡がある。後2者は沖積地から少し比高差の高い低丘陵上に立地するものが多く、後期の遺跡の一般的な立地と共通する。小越遺跡、助平2号遺跡は中期中葉後半～後期前葉の遺跡で、1時期が1～数件の堅穴住居跡とそれに伴う貯蔵穴などで構成される小規模な集落である。

後期になると高屋町では遺跡が密集して形成されるようになり、西本遺跡群<sup>21</sup>や淨福寺遺跡群<sup>22</sup>など大規模な遺跡がみつかっている。そのほかに本遺跡周辺では鏡西谷遺跡<sup>23</sup>、鴻の巣南遺跡<sup>24</sup>などがある。鏡西谷遺跡からは後期前葉を主体とする高地性集落が検出され、同遺跡G地区から出土した弥生土器は当地域の基準的資料となっている。鴻の巣南遺跡の出土遺物は遺構内を中心に、弥生土器、石鎌、磨製石斧、砥石、鉄製釣針などが出土した。弥生土器については調査区のほぼ全域で出土しており、特に遺構周辺に集中している。これらの遺構群は弥生時代後期中葉～後葉に位置付けられる。

墳墓についてみると、中期以前では藤が迫遺跡<sup>25</sup>、植ヶ坪3号遺跡<sup>26</sup>など調査例は少ない。組合せ木棺墓、土坑墓を主体としている。箱式石棺墓の出現時期は明確になっていないが、中山遺跡<sup>27</sup>は箱形石棺墓1基、土坑墓11基で構成され、出現期と位置付けられると考えられる。遺跡内から遺物の出土は確認されなかったが、墳墓の構成や周辺遺跡の土器の出土状況から中期末から後期後葉に位置付けられる。

後期になると、狐が城遺跡<sup>28</sup>、鍵向山遺跡<sup>29</sup>、胡麻5号遺跡<sup>30</sup>、西本遺跡E地点、西本6号遺跡、行摠1号遺跡<sup>31</sup>、中島1号遺跡<sup>32</sup>、など多くの遺跡があり、箱式石棺、石蓋土坑墓、土坑墓、土器棺墓などを内部主体としており、箱式石棺の割合が大きく増加している。

## [古墳時代]

古墳時代では弥生時代後期に大規模な集落跡が成立した高屋町や高屋町に隣接した西条盆地北東部に前期の古墳が集中している。西条盆地で最古と考えられるのは才が迫古墳<sup>(33)</sup>で、古墳時代初頭に位置付けられる。その他、原の谷古墳<sup>(34)</sup>や白鳥古墳<sup>(35)</sup>、丸山神社古墳<sup>(36)</sup>が4世紀の築造と考えられる。中期の古墳には、千人塚古墳<sup>(37)</sup>、スクモ塚1～3号古墳<sup>(38)</sup>、三ツ城古墳<sup>(39)</sup>、夫婦茶屋古墳<sup>(40)</sup>、八幡山大池古墳<sup>(41)</sup>、大槻1号古墳<sup>(42)</sup>、同第3号古墳<sup>(43)</sup>などがある。後期の古墳には狐が城古墳<sup>(44)</sup>、古市古墳<sup>(45)</sup>、助平古墳<sup>(46)</sup>、奥田大池古墳<sup>(47)</sup>、大槻2号古墳<sup>(48)</sup>、鏡東谷古墳<sup>(49)</sup>などがある。

集落遺跡では、前期と中期は少ないが、横田1号遺跡<sup>(50)</sup>の調査で規模が7.3m×6.8mの大型の方形堅穴住居跡がみつかっている。後期特に6世紀後葉以降の遺跡に集中している。またその立地も、中期から継続している助平3号遺跡<sup>(51)</sup>を除く、徳政遺跡<sup>(52)</sup>、助平2号遺跡<sup>(53)</sup>、金平山遺跡<sup>(54)</sup>などはいずれも丘陵斜面や丘陵上に位置しており、数件程度の小規模な集落が多い。その他、平木池遺跡<sup>(55)</sup>、陣が平西遺跡<sup>(56)</sup>、山中池遺跡第2地点などは、6世紀後葉前後に成立し、短期間で廃絶したと考えられている。これらは須恵器生産などに関連した工人集落とみられ、陣が平西遺跡と山中池南遺跡第2地点では須恵器焼成窯跡が検出されている。

陣が平西遺跡からは古墳時代後期の須恵器焼成窯跡2基、土坑1基などが検出された。これらの窯跡群の南側には工房跡を含む住居跡群が分布している。須恵器窯跡はいずれも極めて保存状態が良好で、広島県を代表する遺跡であることが明らかとなっている。また、集落跡、須恵器焼成窯跡、古墳が一体的に検出された珍しい遺跡である。須恵器焼成窯跡群の東側の丘陵では横穴式石室を内部主体とする古墳（陣が平西古墳）が確認されている。直径約10mの円墳と推定されており、墳丘の南側では墳丘及び石室を削平した際に流出したと思われる須恵器が多数出土し、陣が平西遺跡の1号焼成窯跡第2操業期とほぼ同時期の古墳と考えられている。

## [古代以降]

古代以降の主要な遺跡には以下のものが上げられる。古代では史跡安芸国分寺跡<sup>(57)</sup>、西本6号遺跡、東ガガラ窯跡<sup>(58)</sup>、陣が平西遺跡2号窯跡<sup>(59)</sup>がある。中世では山口に本拠を置く大内氏が東方進出の足掛かりとして鏡山城<sup>(60)</sup>を築城した。その繩張りなど戦国期前半の山城の構造が明らかになっている。また、鏡山城跡南側の山裾にある鏡東谷遺跡<sup>(61)</sup>、鏡西谷遺跡、鏡千人塚遺跡<sup>(62)</sup>からは、居館跡や防御施設などと考えられる遺構が検出されている。南北朝期及び室町時代には鏡山城に関連する八幡山城跡や陣が平城跡をはじめとする多くの山城が築城されている。近世では、西条駅前区画整理事業で一部が調査された四日市遺跡<sup>(63)</sup>から西国街道の宿場町であった「四日市宿」の町割りや当時使われていた物品が検出されていて、当時の様相の一端を知ることができる。

## 参考文献

- (1) 藤野次史編『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』 広島大学埋蔵文化財調査室 平成19(2007)年
- (2) 藤野次史・中村真理編『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』 広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室 平成16(2004)年
- (3) (2)と同じ
- (4) 藤野次史・横林啓介編『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 広島大学埋蔵文化財調査室 平成17(2005)年
- (5) (4)と同じ
- (6) (4)と同じ
- (7) (2)と同じ
- (8) (2)と同じ
- (9) 出野上靖・辻満久編『和田平遺跡発掘調査報告書』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成13(2001)年
- (10) (4)と同じ
- (11) (4)と同じ
- (12) 青山透編『東広島ニュータウン遺跡群Ⅰ』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成2(1990)年
- (13) 津田真琴編『友松2・3号遺跡発掘調査報告書』 東広島市教育委員会 平成26(2014)年
- (14) 河瀬正利編『広島県文化財調査報告』 第9集 広島県教育委員会 昭和46(1971)年
- (15) 松井和幸編『金平山遺跡・貞符谷遺跡』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成4(1992)年
- (16) 岩治益生編『黄幡1号遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成17(2005)年
- (17) 藤岡孝司編『小西遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成10(1998)年
- (18) 妙尾周三編『西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(Ⅱ)』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成5(1993)年
- (19) 石井隆博編『小越遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成9(1997)年
- (20) 植田千佳穂編『西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(Ⅰ)』 広島県教育委員会・財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和58(1983)年  
石井隆博編『西条第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』 東広島市教育委員会 平成5(1993)年
- (21) 藤原芳秀編『西本6号遺跡』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成9(1997)年
- 金井亜喜編『西本遺跡群一A・B・C地点』 広島県教育委員会 昭和51(1976)年
- 山口義信編『西本遺跡群一D・E・F地点』 東広島市教育委員会 昭和51(1976)年
- 中山学編『西本6号遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成8(1996)年
- (22) 妙尾周三編『東広島ニュータウン遺跡群Ⅲ』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成5(1993)年
- (23) 藤野次史・増田直人編『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書』 広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室 平成15(2003)年
- (24) (1)と同じ
- (25) 藤田等編『広島県文化財調査報告』 第9集 広島県教育委員会 昭和51(1971)年
- (26) 太田史代編『横ヶ坪3号遺跡(B地区)』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和63(1988)年
- (27) 藤野次史編『広島大学統合移転地域埋蔵文化財調査年報Ⅱ』 広島大学統合移転地理埋蔵文化財調査委員会 昭和60(1985)年
- (28) (20)と同じ
- (29) 芹田隆雄・向田裕二編『賀茂カントリーゴルフクラブ場内遺跡群発掘調査報告書』 広島県教育委員会 昭和50(1975)年
- (30) (12)と同じ
- (31) 植田広編『行摺1号遺跡発掘調査報告書』 東広島市教育委員会 平成26(2014)年
- (32) 津田真琴編『中島1号遺跡発掘調査報告書』 東広島市教育委員会 平成27(2015)年
- (33) 大上裕士編『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成5(1993)年
- (34) 出野上靖編『原の谷古墳・原の谷遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成15(2003)年
- (35) 松崎寿和編『広島県史 考古編』 広島県 昭和54(1979)年
- (36) 平成3(1991)年に広島大学が測量調査を行い、後円部壇から土師器が採取された。
- (37) (23)と同じ
- (38) (35)と同じ
- (39) 松崎寿和編『三ツ城古墳—広島県賀茂郡西条町』 広島県教育委員会 昭和29(1954)年  
石井隆博編『史跡三ツ城古墳発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成16(2004)年

(40) (35) と同じ

(41) 梶本健治編『道照道路・西条バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 広島県教育委員会・財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和57(1982)年

(42) (18) と同じ

(43) 道上康人編『大原遺跡群』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和60(1985)年

(44) (28) と同じ

(45) (20) と同じ

(46) (20) と同じ

(47) 道上康人編『奥田大池遺跡』 広島県教育委員会・財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和58(1983)年

(48) (43) と同じ

(49) (23) と同じ

(50) 松尾祥子編『横田1号遺跡発掘調査報告書』 創建ホーム株式会社・大成エンジニアリング株式会社・東広島市教育委員会 平成24(2012)年

(51) 背山透編『西条第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書1』 東広島市教育委員会 平成4(1992)年

佐々木直彦編『西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成5(1993)年

(52) 松村昌彦・伊藤龍司編『衛城遺跡発掘調査報告書』 東広島市教育委員会 昭和57(1982)年

(53) (28) と同じ

(54) (15) と同じ

(55) 植田千佳穂編『平木池遺跡発掘調査報告書』 広島県教育委員会・財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和57(1982)年

(56) 藤野次史・植林啓介編『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書V』 広島大学埋蔵文化財調査室 平成20(2008)年

(57) 河瀬正利編『安芸国分寺跡－第1次調査概報－』 広島県教育委員会 昭和45(1970)年

河瀬正利編『安芸国分寺跡－第2次調査概報－』 広島県教育委員会 昭和46(1971)年

伊吹清編『安芸国分寺跡－第3次調査概報－』 広島県教育委員会 昭和47(1972)年

藤岡孝司編『安芸国分寺東方遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成9(1997)年

中山学他編『史跡安芸国分寺跡発掘調査報告書I～IX』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成11～19(1999～2007)年

植田広編『安芸国分寺周辺遺跡発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成21(2009)年

(58) 植田千佳穂・佐々木直彦編『広島大学統合移転地内埋蔵文化財調査報告』 広島県教育委員会・財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和57(1982)年

(59) (56) と同じ

(60) 吉野龍志編『鏡山城－その歴史と意義－大内氏の地方支配を探る－』 東広島市教育委員会 平成11(1999)年

(61) (23) と同じ

(62) (58) と同じ

(63) 中山学編『四日市遺跡発掘調査報告書』 東広島市教育委員会 平成14(2002)年

石垣敏之他編『四日市遺跡発掘調査報告書I～IV』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成16～18(2004～2006)年

### III 調査の概要

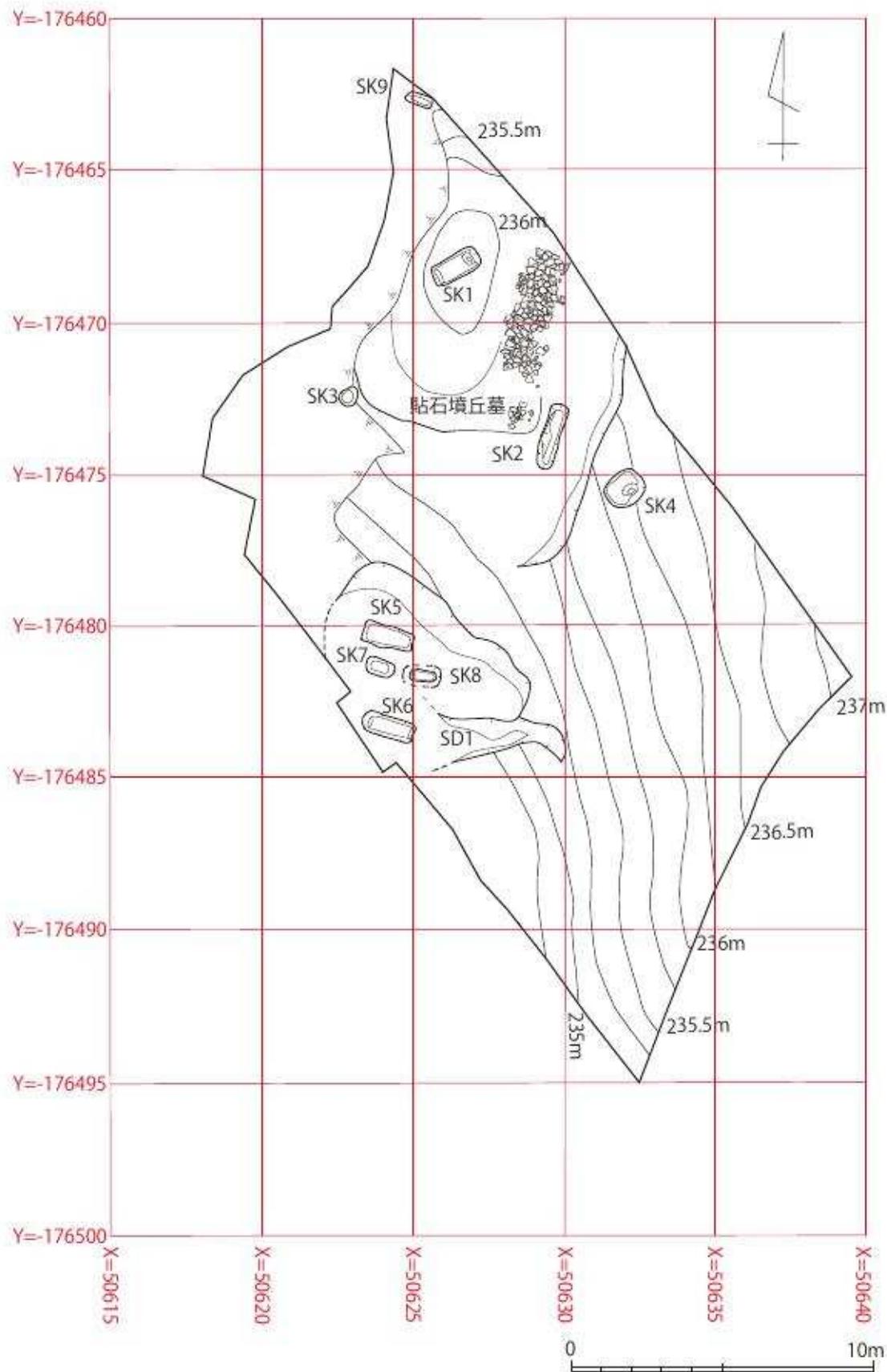
陣が平西2号遺跡の発掘調査（現地調査）は、遺跡範囲（約700m<sup>2</sup>）のうち、開発事業にかかる約350m<sup>2</sup>について、平成26年2月3日～同年3月20日まで実施した。

調査は、先ず現状の写真を撮影した。本遺跡では、これまでの試掘調査により遺跡の東側（保存区域）で箱形石棺群を検出し、本調査区内でも石棺状の石材を確認（のち石蓋土坑墓SK2と判明）していたため、箱形石棺群が存在すると予測されていた。また、堆積土が一定量確認されていたため、調査区の東側から重機により堆積土の除去を行った。調査区の南西部では、堆積土が薄かったことと、敷石（後に貼石墳丘墓と判明）を確認したため、手作業で表土剥ぎを行った。表土剥ぎが終了したのち、順次遺構の検出及び精査を行ったのち、遺構実測・写真撮影などの記録を作成した。最後にラジコンヘリコプターを使用し、空中写真撮影を行い、調査を終了した。

調査の結果、貼石墳丘墓1基（埋葬主体：木棺墓1基）、テラス状の墓域1ヵ所（木棺墓4基）、石蓋土坑墓1基、土坑墓1基、性格不明土坑2基、溝状遺構1条を検出し、遺物は、弥生土器、石製品、鉄製品（鉄鎌）が出土した。



第2図 遺跡位置図 (1:2,500)



第3図 遺構配置図(1:200)

## IV 遺構と遺物

### 遺構と遺物

本遺跡では、貼石墳丘墓1基(埋葬主体:木棺墓1基)、テラス状の墓域1ヶ所(木棺墓4基)、石蓋土坑墓1基、土坑墓1基、性格不明土坑2基、溝状遺構1条を検出し、遺物は、弥生土器、石製品、鉄製品が出土した。

以下、発掘調査で検出した遺構と、それに伴う遺物について詳述する。

#### 1. 貼石墳丘墓(第3・4図、図版1・2)

貼石墳丘墓は、調査区北西端で検出した。北側、南側、西側は後世の諸開発や、自然流失により遺構が削られており、原形をとどめていない。また、墳丘頂部も雨水などで削られていて、東から西に傾斜している。墳丘頂部の埋葬施設は木棺墓1基(SK1)だけが検出された。

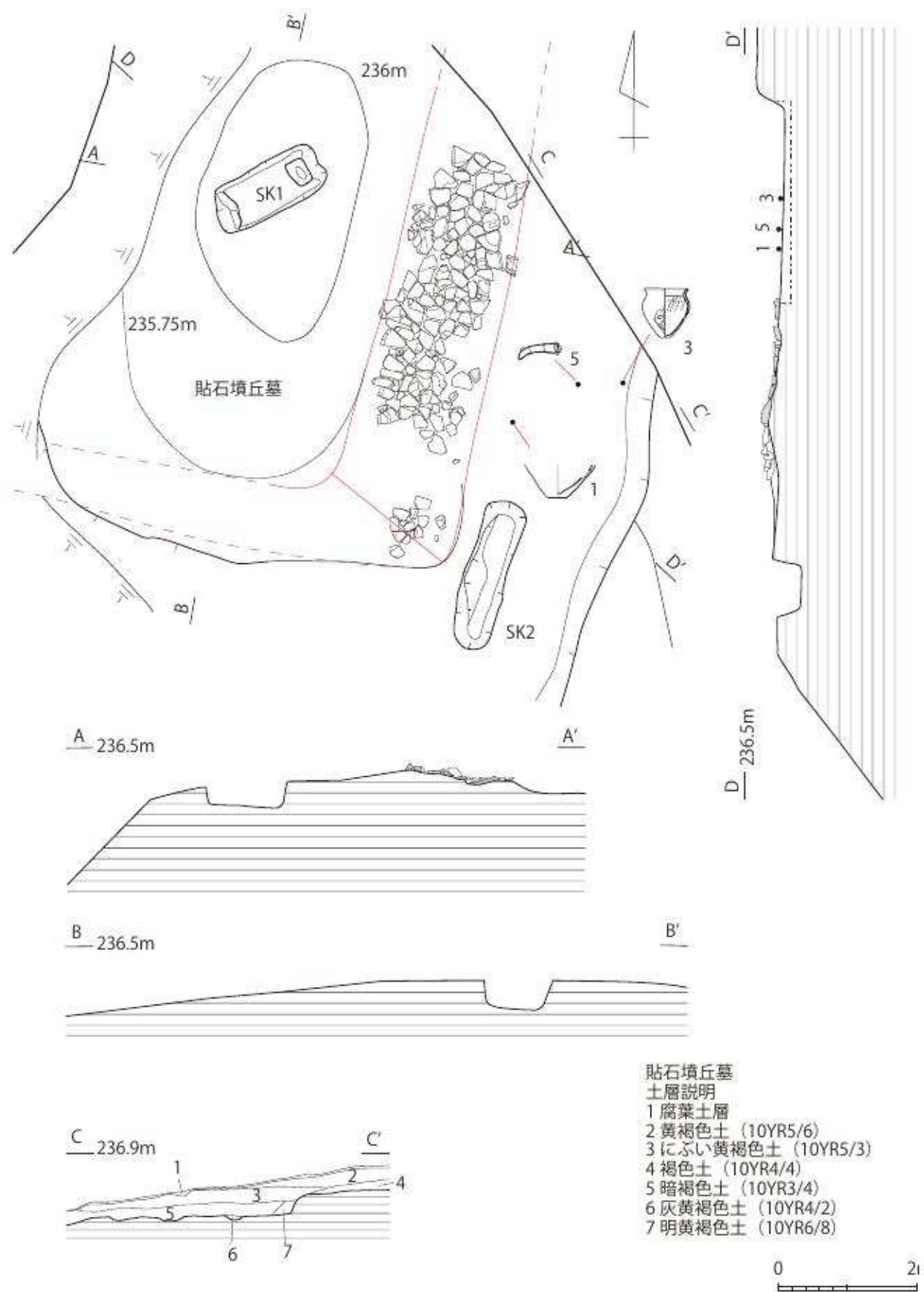
墳丘墓の貼石が検出されたのは、墳丘の東辺で、検出された貼石列は、10~40cm大の偏平な角礫の一片を加工し平坦面を作り、平坦面を上面にして旧表土中に南北方向に向けて貼石を施す。検出された貼石列は北側から南側の斜面下方に向けて緩やかに下る。貼石列南側の隅部は、石の配置に若干の乱れがある。また、この貼石列の東側には、墳丘墓の墓域を区画したと思われる背面カットを施す。形状は南北方向を長軸とする方形の墳丘墓が想定できる。検出した現存規模は、南北方向が約6.0m、東西方向が約5.0m、高さ約0.18mである。断面観察の結果、旧表土層は暗褐色土(10YR3/4)の堆積である。貼石は、墳丘墓の内側にあたる西側を高く強調させ、東側に向けて緩やかな傾斜を設け、直貼りを施す。貼石列の南側では、若干弧状を呈しており、貼石に乱れがあり現状では不明瞭であるが、南側の隅を担う隅石列の存在も想定できる。しかし、現状では破壊が著しく明確な判断はし難い。遺物は弥生土器や鉄製品(鉄鎌)が墳丘東側の背面カット部から出土している。

#### 出土遺物(第10図、図版5)

1・2はともに器形不明の底部の破片である。3は甕である。口頸部が「く」字状に外反し、端部はナデを施す。胴部は若干張りだし、胴部と底部に焼成後に開けたと思われる孔がある。4は低脚杯である。口縁端部が内側に若干湾曲する脚部は比較的短く、脚端部を外側に拡張する。5は鉄製品(鉄鎌)である。その形状から小型の曲刃鎌で、朝鮮半島製の可能性も考えられるものである。湾曲する先端部を丸くおさめており、基部の折り返しは刃部に対して鈍角であり、柄は木質部の残存状況からやや斜め方向に装填していたのではないかと思われる。大きさは長さ12.3cm、幅は先端部で0.9cm、基部で3.3cm、厚さ0.2~0.5cm、重さ42gである。

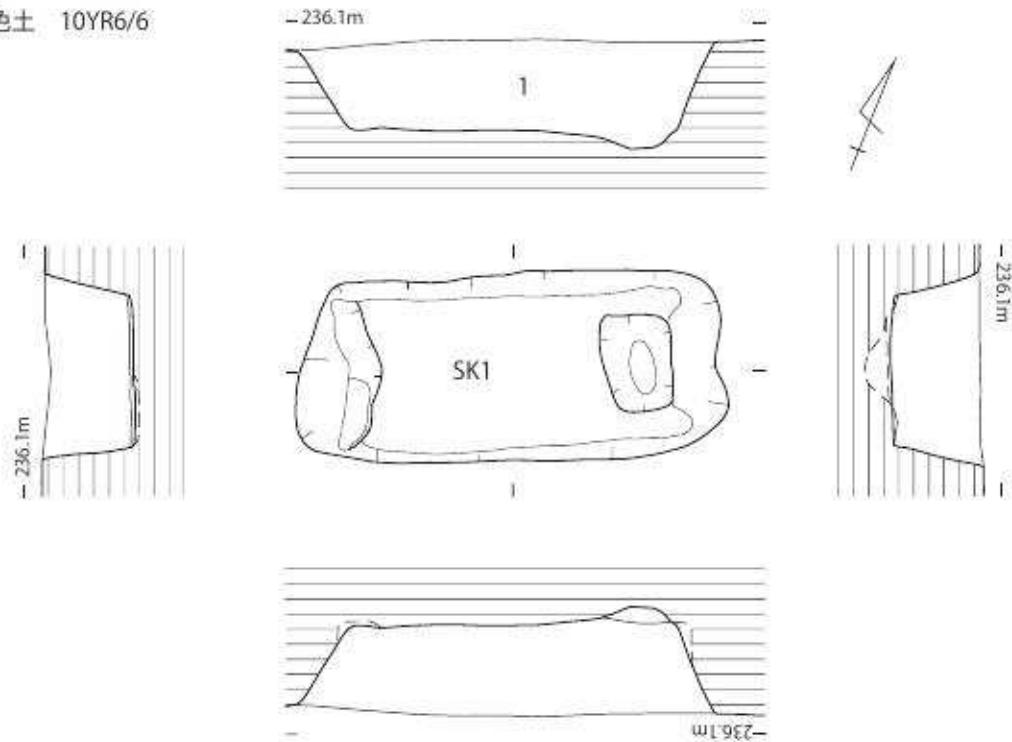
#### SK1(第3・5図 図版1)

SK1は貼石墳丘墓内のほぼ中央に位置する木棺墓である。その位置関係から貼石墳丘墓

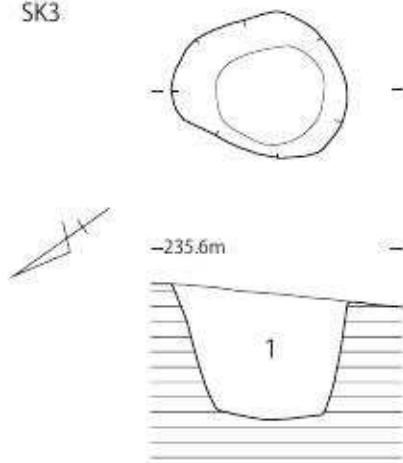


第4図 貼石墳丘墓実測図 (1:80)

SK1  
土層説明  
1 明黄褐色土 10YR6/6

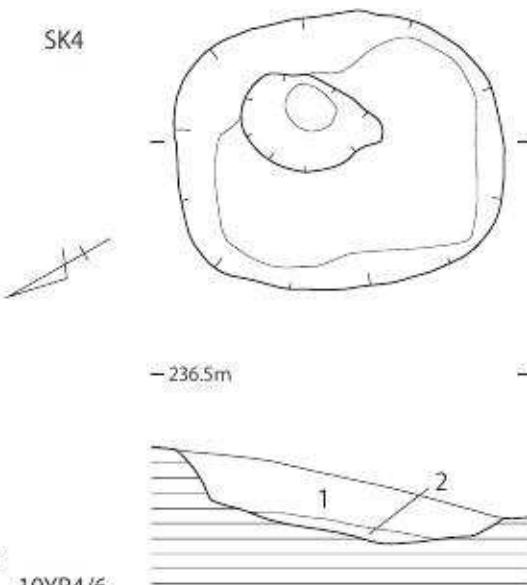


SK3

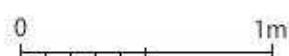


SK3  
土層説明  
1 にぶい黄褐色土 10YR5/4

SK4



SK4  
土層説明  
1 褐色土 10YR4/6  
2 明褐色土 10YR5/8



第5図 SK1・SK3・SK4 遺構実測図 (1:30)

に伴う木棺墓と考えられる。また、構築状況から推測すると掘り込みが深く、墳丘の中心にあることから、主たる埋葬施設ではないかと考えられる。他の埋葬施設は墳丘流失のため確認できなかったため、存在しなかったのかは現状では、不明である。主軸はN 45° Eを指す。平面形は長方形で、掘方の規模は長軸約1.65 m、短軸約0.74 m、深さ約0.36 mである。また、木棺の小口板痕跡が東西の隅にみられる。頭位は東側の掘方が若干広く掘られていることから、東方向を指向するものと考えられる。埋土は明黄褐色土(10YR6/6)の堆積がみられる。副葬品は出土していない。

## 2. 石蓋土坑墓 (SK2) (第3・6図 図版3)

SK2は貼石墳丘墓の東側に位置する石蓋土坑墓である。主軸はN 66° Eを指す。石蓋は長さ約0.40 mから幅約0.60 mの偏平な角礫を11枚使い北方向から南方向に配置したものと考えられる。また、石蓋の隙間を詰めるため、長さ約0.18 mから約0.22 mの偏平な角礫を目地として使用する。その目地に使用された石は西側に隣接する貼石墳丘墓の南東隅の貼石が抜き取られていることから、墳丘墓の貼石を転用したことが窺えられる。平面形は長方形で、掘方の規模は長軸約2.43 m、短軸約0.53 m、深さ約0.36 mである。頭位は北側の掘方が広く掘られており、石蓋を北側から配置することから頭位は北側を指向するものと考えられる。埋土は暗褐色土(10YR3/4)の堆積がみられる。遺物は出土していないが、石の配置方法などから構築時期は弥生時代後期後半から古墳時代初頭が想定できる。

## 3. 木棺墓群 (第3・7図、図版4)

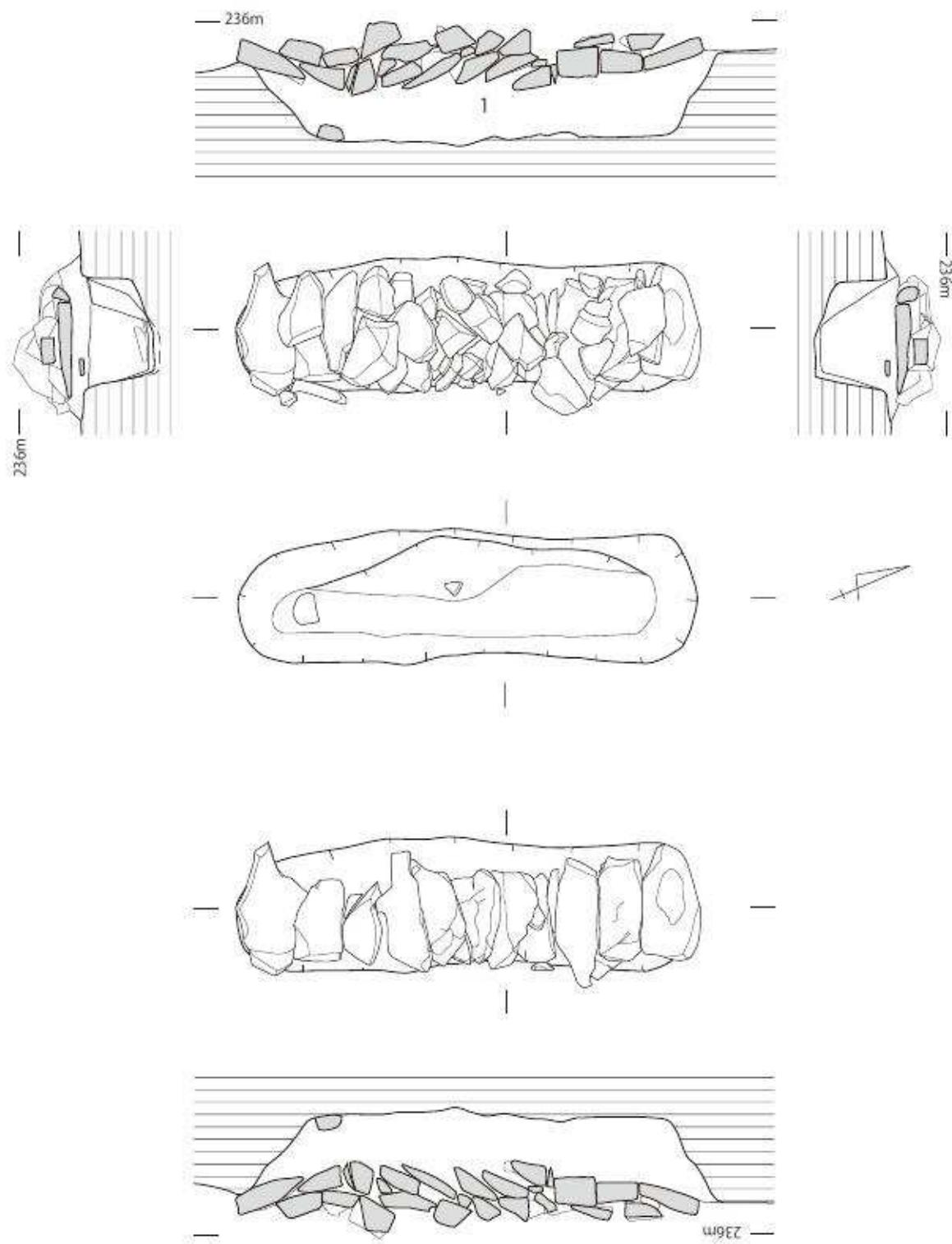
木棺墓群(SK5～6)は、調査区中央付近の南西側に位置する。北側の斜面上方を約0.40 m掘り下げ、テラス状の平坦面を構築する。平坦面の規模は、長さ約7.0 m、幅約4.0 mである。その平坦面の中に、木棺墓(SK5～8)を配置するという状況である。いずれの木棺墓も、東西方向に主軸を持つ。また、平坦面の南側はSD1(溝状遺構)に切られている。遺物は木棺墓群の上層部からまとめて出土している。

### 出土遺物 (第10図、図版6)

6は弥生土器の壺である。頸部が直立して上方で外反する。口縁端部は肥厚し、やや下向きとなり、凹線文が2条入る。胴部の上半に最大径をもつ。7は小型の甕である。胴部が張り、底付近に孔を穿つ。口頸部は「く」字状に強く外反し、口縁を上方に拡張し、端部はナデを施す。8・9は同一個体と考えられる高杯である。杯部口縁端部は内外に拡張しており断面は「T」字を呈する。口縁は外反し、円形の透孔がある。脚部の上半部には凹線文が5条あり、脚部の最も細い部分には斜格子文を施す。また、下半部には三角形状の透かしが入り、脚部はラッパ状に開き、脚端部を拡張する。

### SK5 (第3・7・8図 図版4)

SK5は、調査区南西側にある木棺墓群の北側に位置する木棺墓である。土層観察の結果、木棺痕跡は確認できなかったが、東側と西側に小口板を設置した痕跡が残る。主軸はN



SK2  
土層説明  
1 暗褐色土10YR3/4

0 1m

第6図 SK2 遺構実測図 (1:30)

69° Wを指す。平面形は長方形で、掘方の規模は長軸約1.65 m、短軸約0.65 m、深さ約0.45 mである。頭位は西側が広く掘られていることから、西側を指向するものと考えられる。埋土は褐色土(10YR4/6)がみられる。遺物は石製品(石鎌)が出土している。

#### 出土遺物(第10図、図版6)

10は石製品の石鎌である。比較的浅い抉りをもち、脚部は平坦である。色調は全体的に浅い青灰色を呈する。両端面ともに剥片の素材面を残し、剥片に雑な剥離を施す。大きさは長さ約2.0cm、幅約1.3cm、厚さ約0.3cm、重さ0.94 gである。石材は安山岩製のものである。

#### SK6(第3・7・8図 図版4)

SK6は調査区西端に位置する木棺墓である。土層観察の結果、木棺痕跡は確認できなかつたが、東側と西側に小口板を設置した痕跡が残る。主軸はN 63° Wである。平面形は長方形で、掘方の規模は長軸約1.71 m、短軸約0.70 m、深さ約0.46 mである。頭位は西側が広く掘られていることから、西側を指向するものと考えられる。埋土は褐色土(10YR4/6)から明黄褐色土(7.5YR5/6)がみられる。遺物は出土していない。

#### SK7(第3・7・9図 図版4)

SK7はSK5の南西側約0.40 mに位置する木棺墓である。土層観察の結果、木棺痕跡は確認できなかつたが、二段掘りであることから、木棺直葬の可能性がある。主軸はN 79° Wである。平面形は長方形で、長軸約0.96 m、短軸約0.54 m、深さ約0.42 mである。頭位は西側が広く掘られていることから、西側を指向するものと考えられる。埋土は褐色土(7.5YR4/6)がみられる。遺物は出土していない。

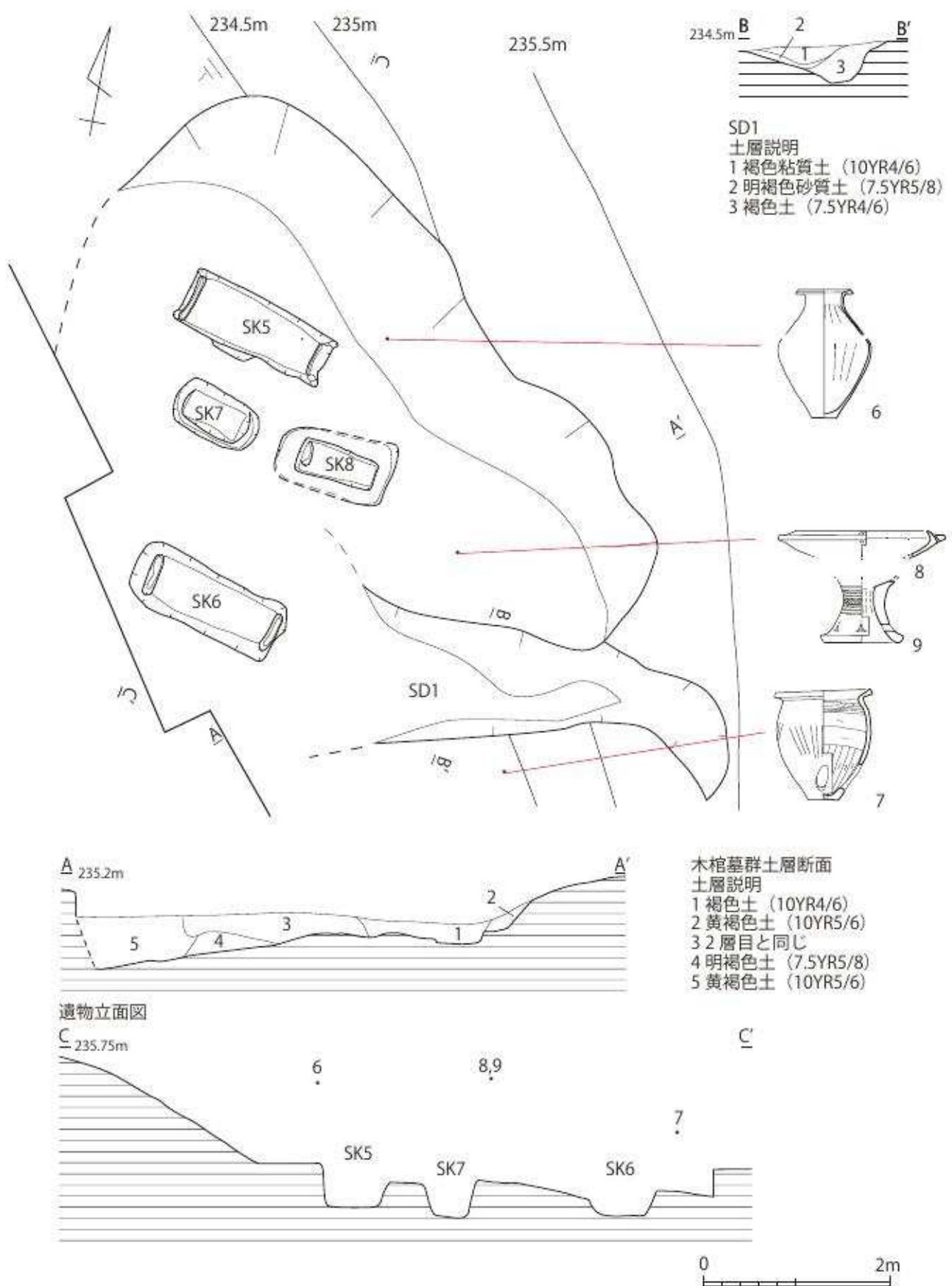
#### SK8(第3・7・9図 図版4)

SK8はSK7の東側約0.30 mに位置する木棺墓である。主軸はN 80° Wである。土層観察の結果、木棺痕跡は確認できなかつたが、西側に小口板を設置した痕跡が残る。平面形は長方形で、掘方の外法が長軸約1.24 m、短軸約0.63 m、深さ約0.15 mで、内法が長軸約0.87 m、短軸約0.38 m、深さ約0.41 mである。頭位は西側が広く掘られていることから、西側を指向するものと考えられる。埋土は明黄褐色土(7.5YR5/8)がみられる。遺物は出土していない。

### 4. その他の遺構

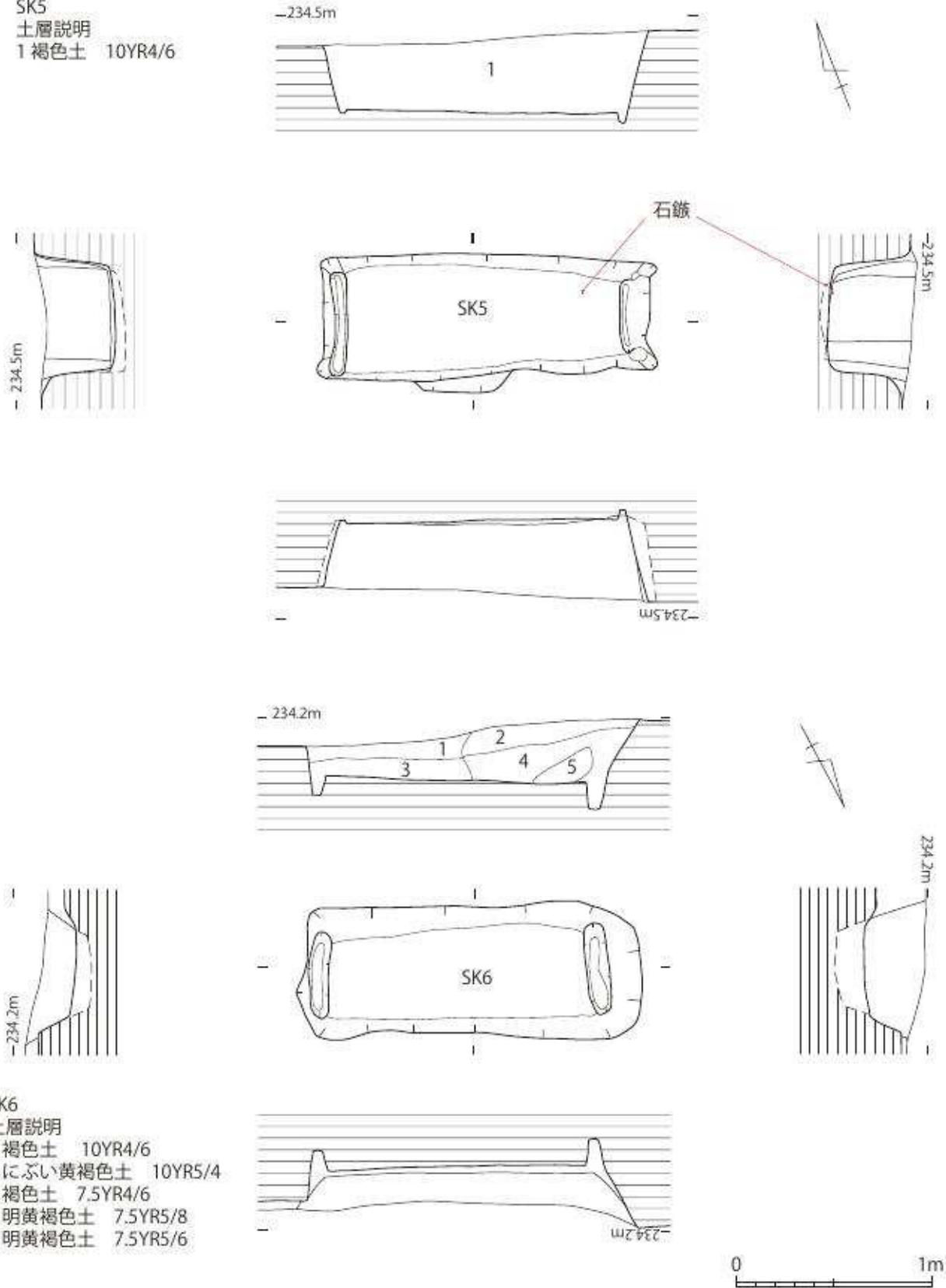
#### SK9(第3・9図)

SK9は調査区の北西端に位置する土坑墓である。主軸はN 80° Wである。土層観察の結果、素掘りの土坑と考えられる。平面形は長方形で、長軸約0.90 m、短軸約0.50 m、深さ約0.52 mである。頭位は北側を指向するものと考えられる。埋土は明黄褐色土(7.5YR5/8)がみられる。遺物は斜面東側から流れ込んだと考えられる弥生土器片が出土している。

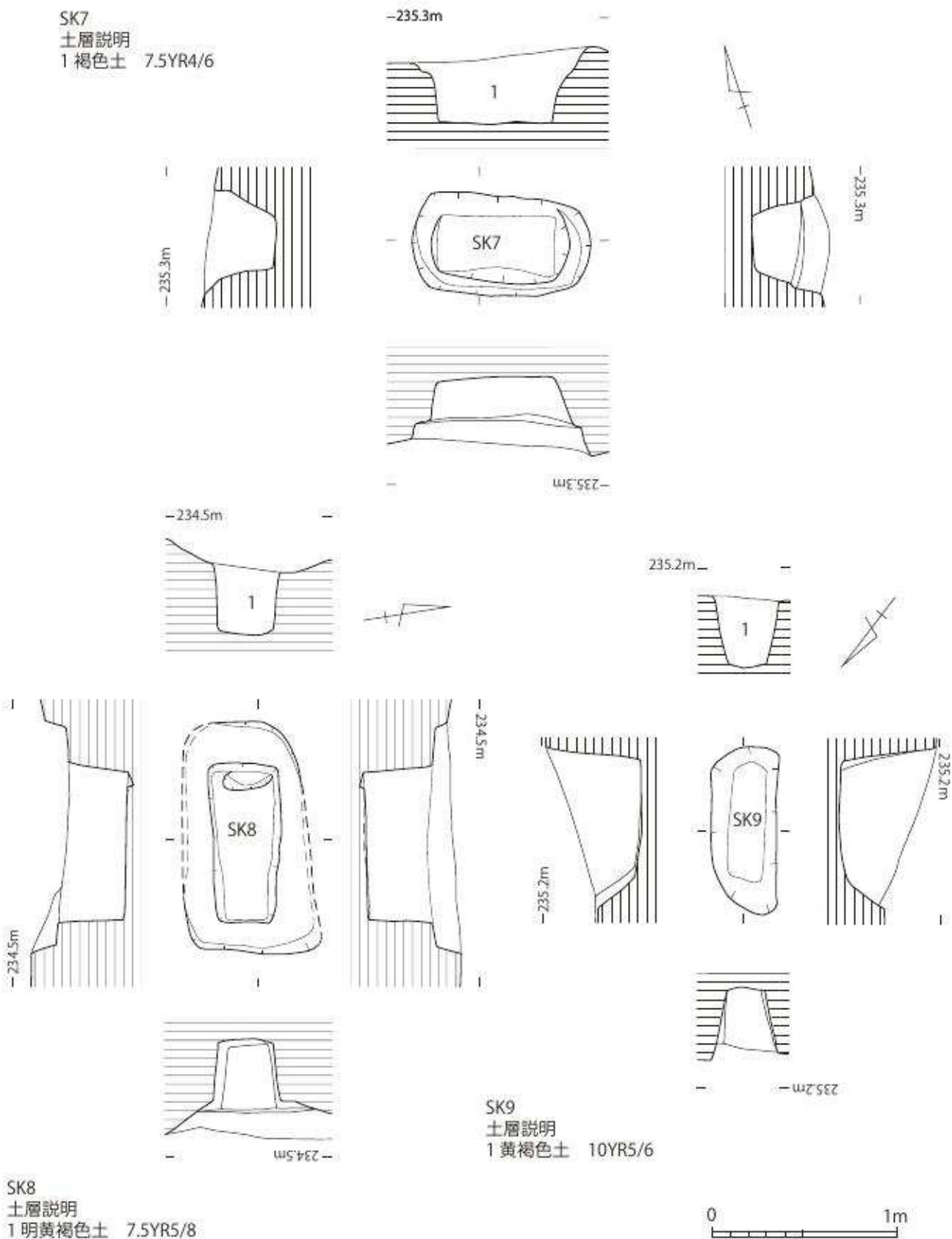


第7図 木棺墓群実測図 (1:60)

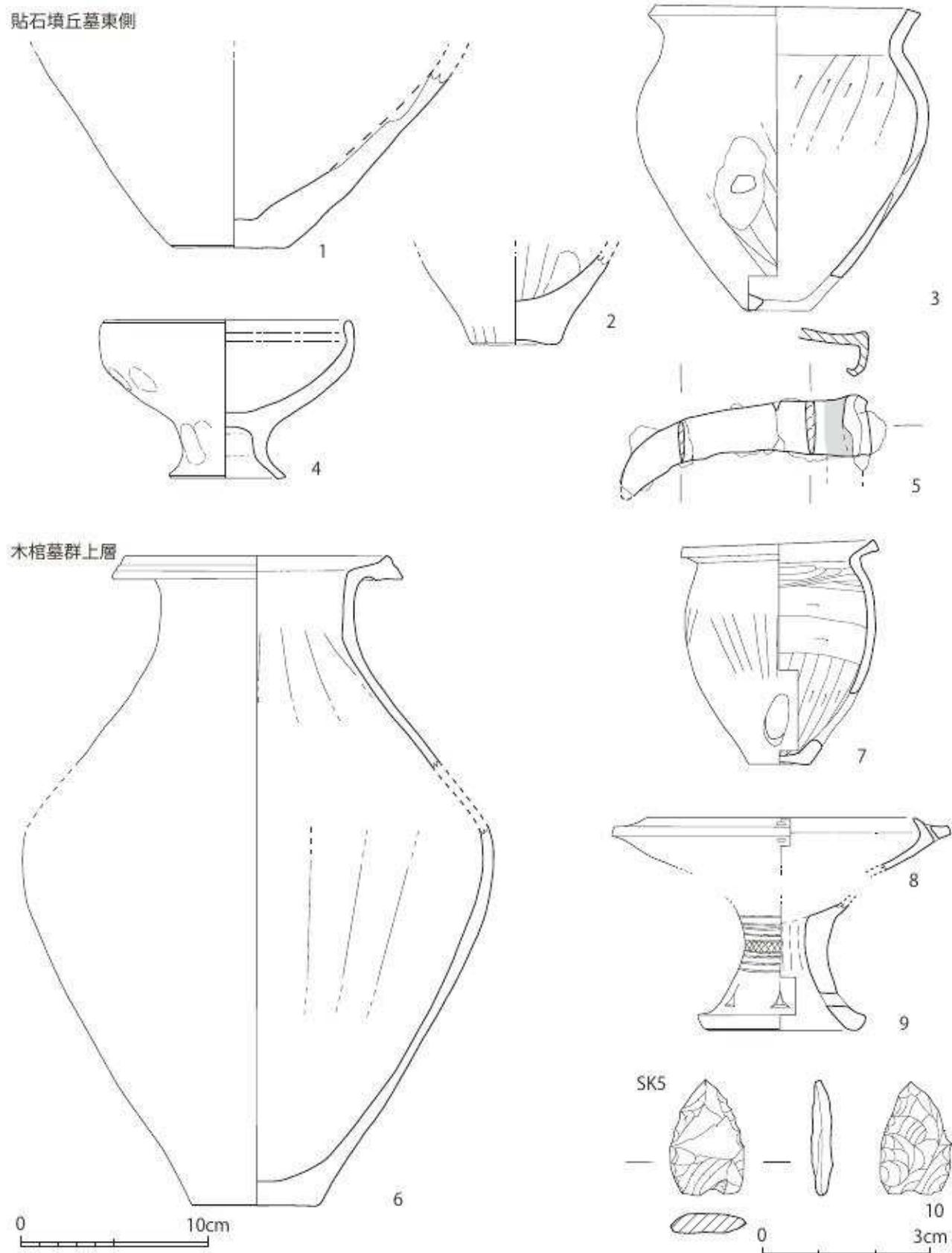
SK5  
土層説明  
1 褐色土 10YR4/6



第8図 SK5・SK6 遺構実測図 (1:30)



第9図 SK7・SK8・SK9 遺構実測図 (1 : 30)



第10図 遺物実測図 (1~10は1:3、11は1:1 ■は木質部)

### SK3 (第3・5図)

SK3は貼石墳丘墓の南側斜面の中にあたる、調査区の西側に位置する土坑である。主軸はN 36° Eを指す。平面形は橢円形で、掘方の規模は長軸約0.70m、短軸約0.58m、深さ約0.54mである。上側は後世の削平を受け、攪乱されたものと考えられる。埋土はにぶい黄褐色土(10YR5/4)の堆積がみられる。遺物は出土していない。

### SK4 (第3・5図)

SK4はSK1の東側約2mに位置する土坑である。主軸はN 31° Eを指す平面形は不正の長方形で、掘方の規模は長軸約1.30m、短軸約1.10m、深さ約0.38mである。埋土は褐色土(10YR4/6)から明褐色土(10YR5/8)の2層の堆積がみられる。遺物は出土していない。

### SD1 (第3・7図 図版4)

SD1は木棺墓群の東側に位置する溝状遺構である。平面形は不整の長方形を呈し、残存規模で長さ約4.50m、幅約1.45m、深さ約0.45mである。埋土は褐色粘質土(10YR4/6)から褐色土(7.5YR4/6)がみられる。遺物は出土していない。木棺墓群のテラスを切っており、木棺墓群には伴わず、斜面上方から流れ込んだ自然流路の可能性が高いと考えられる。

第1表 遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	器形	法量(cm)			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	底径	高さ					
1	貼石墳丘墓東側 SK9 木棺墓群上層	弦生土器	斐形土器 か壺形土器	-	65	-	外：橙(2.5YR7/6) 内：黄橙(10YR8/6) 断：黄橙(10YR8/6)	密	真		
2	貼石墳丘墓東側	弦生土器	斐形土器 か壺形土器	-	(47)	-	外：橙(5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6) 断：橙(5YR7/6)	密	真	外：ケズリ 内：ケズリ 指頭圧痕	
3	貼石墳丘墓東側	弦生土器	斐形土器	13.5	16.0	(3.3)	外：黄橙(7.5YR7/8) 内：黄橙(7.5YR7/8) 断：黄橙(7.5YR7/8)	密	真	外：ミガキ 内：ケズリ 妹尾V-1穴 (体部、底所)	
4	貼石墳丘墓東側	弦生土器	低脚高环	(13.0)	(6.0)	8.4	外：明黄褐(10YR7/6) 内：明黄褐(10YR7/6) 断：明黄褐(10YR7/6)	密	真	外：指頭圧痕 ナデ	
6	木棺墓群上層	弦生土器	斐形土器	(14.0)	65	(34.5)	外：黄橙(10YR8/6) 内：黄褐(9.0+8.0+8.0+8.0) 断：黄橙(10YR8/6)	密	やや不良	外：凸線2条 内：ケズリ ケズリナデ消し	妹尾V-1(古)
7	木棺墓群上層	弦生土器	斐形土器	10.0	35	12	外：明黄橙(10YR7/6) 内：明黄橙(10YR7/6) 断：明黄橙(10YR7/6)	密	真	外：ミガキ 内：ミガキ、ケズリ ナデ	妹尾V-1か 体部に穴
8	木棺墓群上層	弦生土器	高环	(18.2)	-	-	外：黄橙(10YR8/6) 内：黄橙(10YR8/6) 断：黄橙(10YR8/6)	密	良	外：ナデ 内：ナデ (9と同一個体か)	
9	木棺墓群上層	弦生土器	高环	-	8	-	外：黄橙(10YR8/6) 内：黄橙(10YR8/6) 断：黄橙(10YR8/6)	密	真	外：凸線7条 格子目、透かし 内：絞り、ナデ	縦同士器の透化か、中巻末を もれ隣接部が透かし、5.5cm 内2.5cmは貫通していない

遺物番号	出土地点	種別	器形	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
5	貼石墳丘墓東側	鉄製品	鍤	12.3	先端 0.9 基部 3.3	0.2 - 0.5	420	

遺物番号	出土地点	種別	器形	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
10	SK5	石製品	鎌	20	1.3	0.3	0.9	安山岩製

## V ま　と　め

陣が平西2号遺跡は、標高321mの陣が平山の西側に広がる標高230m前後の丘陵斜面上にあり、西条盆地を形成する沖積地が一望できる立地にある。今回の発掘調査は、遺跡面積700m<sup>2</sup>のうち半分の350m<sup>2</sup>について実施した。

調査の結果、貼石墳丘墓1基（埋葬主体：木棺墓1基）、テラス状の墓域1ヶ所（木棺墓4基）、石蓋土坑墓1基、土坑墓1基、性格不明土坑2基、溝状遺構1条を検出し、遺物は、弥生土器、石製品、鉄製品が出土した。

ここではこれらの資料を基に、主要なものについて若干の検討を加えまとめとしたい。

### 1. 遺構について

調査区の北側から貼石墳丘墓が検出された。形状は方形を呈しており、貼石は、東側の一辺の一部のみ遺存し、そのほか大部分を後世の削平を受けたことにより残存していないため、墳丘墓全体の規模の推定はできなかった。唯一、遺存する東側の貼石の状況から、丘陵斜面をカットして構築したものと考えられる。貼石は裾部ではほぼ平坦に、墳丘部ではやや高めに傾斜を付けて貼り付けられている。南東側の隅が地形的に若干弧状を呈するようみられるため、四隅を突出させていた可能性も窺えるが、貼石の遺存状況が悪いことなどから四隅突出型墳丘墓を想定することは現段階では困難であった。

墳丘墓に伴う埋葬施設と考えられる木棺墓（SK1）が検出され、位置的に貼石墳丘墓の中心にあり、深く掘り込んで構築している点から中心的な埋葬主体であったと考えられる。貼石墳丘墓の東側から検出された石蓋土坑墓（SK2）は、蓋石に貼石を利用していることから、貼石墳丘墓よりも新しい時期のものと考えられる。石蓋土坑墓には副葬品がなく、時期を特定することは難しいが、掘方が浅いことや、蓋石の目張りが頑丈になされている点などから、弥生時代後期後半から古墳時代初期ごろのものではないかと推測される。調査区西側から検出された木棺墓群の構築時期は、上層部から弥生時代中期末ごろの土器が出土しており、弥生時代中期末かそれ以前の時期のものと考えられる。

以上のことから、各遺構の構築時期を整理すると木棺墓群→貼石墳丘墓→石蓋土坑墓の順となる。調査面積が350m<sup>2</sup>という狭い範囲ではあるが、墓域をもつ木棺墓群や、東広島市内で初例である貼石墳丘墓を確認することができ、本遺跡の性格の一端を知ることができた。

近年、広島県北部の江の川流域（備後北部地域）では、弥生時代中期後半～後期にかけての四隅突出型墳丘墓や貼石墳丘墓の調査が行われており、それによると貼石は扁平な石材（角礫や亜角礫、円礫）を選んで墳丘斜面や墳裾に並べるものが多いことが明らかになってきた。鳥取県東部～鳥取県では、相対的に厚みのある不定形の礫を墳丘斜面に、しかも乱雑に貼り付けているため、この違いには注目する必要があろう。また江の川上流域の中でも東部の庄原盆地と、中央部の三次盆地やそれ以西とでは墳丘斜面の状態に違いが見られる。東部のものは墳丘の裾部がなく、斜面が途中で断ち切られたような墳端となるものが多い。陣が平西2号遺跡の貼石墳丘墓も扁平な角礫を利用しており、墳丘の裾部も緩やかで長いことから、東部の墳丘墓との関係がうかがわれる所以である。

類似した貼石をもつ墳丘墓は、鳥取県日南郡日南町の矢戸鍵取免遺跡B地区で検出されている。若干時期は下がり、調査範囲も限られているために詳細については明らかではない。しかし、日野川流域やその周辺に点在する四隅突出型墳丘墓や貼石墳丘墓のなかには、備後地域の土器（搬入品や模倣品）が供献されているものもある。今後備後北部を中心に南北に広がった可能性についても検討が望まれる。

## 2. 遺物について

本遺跡では、弥生土器が貼石墳丘墓東側と木棺墓群上層の2地点からまとめて出土している。時期としては、木棺墓群上層から出土したものが、弥生時代中期の末頃、貼石墳丘墓東側から出土したものが弥生時代後期初頭頃と考えられる。

報告番号9の高杯の脚部を除いて、装飾の少ない土器が多い。報告番号9の高杯の脚部や報告番号8の杯身などの装飾のある杯は、西条盆地では奥田大池遺跡、西東子遺跡、鏡西谷遺跡などで出土しており、時期は弥生時代中期後半頃と考えられる。この高杯以外の土器としては、安芸地方にみる一般的な在地系土器である。

遺物の出土位置については、先述したとおりで、貼石墳丘墓東側と木棺墓群上層の2地点である。遺物とその出土位置から、本遺跡においてはまず木棺墓群が構築され、その後貼石墳丘墓、続いて石蓋土坑墓の順に造営されたと考えられているが、木棺墓群上層から出土した土器が、木棺墓に伴っていたものかどうかは疑問が残る。その理由として、土器が土坑墓群の検出面ではなく、木棺墓群上層からみつかっている点と報告番号7の小型甕のみがSD1の上層付近という若干離れた場所から出土した点などがあげられる。

上記のことから、木棺墓群上層出土の土器は、貼石墳丘墓東側出土土器と同様に、貼石墳丘墓への供献土器であり斜面を滑落したものと思われる。これによって、貼石墳丘墓の構築は弥生時代中期末から後期初頭ごろとみられる。また、出土土器以外に報告番号5の曲刃鎌（朝鮮半島製）がある。

川越哲志氏の分類に当てはめて整理すると次のようになる。A類の中・小型の鎌でA I類に属し、刃の形態は若干内湾する。基部の折り返しは刃部に対してほぼ直角に折り返し、刃先の丸いもので、基部の形状は基部と刃部が明瞭に区分できるものである。時期は弥生時代後期終末期頃を想定されている。また、片岡宏二氏は、小型の鉄鎌を弥生時代終末期～古墳時代へ移行すると捉えつつも、中期末～後期初頭に出現した可能性もあるとも考えられている。

ここで広島県内出土の主な曲刃鎌（第11～13図）を参照すると次のようになる。時期は1～12が弥生時代、13～40が古墳時代のものであり、圧倒的に古墳時代の数量が多いことがわかる。少なくとも報告番号5は、共伴する出土土器の時期からすると後期初頭頃まで時期が遡ることになるが、形態からすると古墳時代の可能性も高く、石蓋土坑墓の供献遺物とも考えられないこともない。今後鉄鎌の時期的問題を考える上で、貴重な資料を提供してくれたものと言えよう。

以上のことから、陣が平西2号遺跡出土の土器をまとめると、報告番号4の低脚杯の類似品が三次市の陣山墳墓群で出土していることから、墳墓の造営に関する交流があったことが充分に窺える。

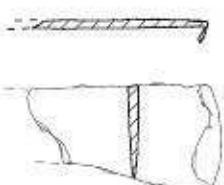
## 参考文献

石井隆博「西東子遺跡発掘調査報告書」 東広島市教育委員会 平成8(1996)年

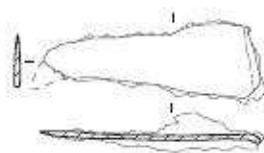
- 石貴弘泰・斎藤礼「佐田岬墳墓群（第1次）調査」「帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 XXII」 広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室・考古学研究室 平成20（2008）年
- 伊藤 実「弥生時代」「三次市史 I」 三次市 平成16（2004）年
- 落田正弘「陣山遺跡」 三次市教育委員会 平成8（1996）年
- 尾本原勇人『宗祐池西遺跡発掘調査報告書』 三次市教育委員会 平成8（1996）年
- 門脇豊文「矢戸鍵取免遺跡発掘調査報告書」 鳥取県日南郡日南町教育委員会 平成22（2010）年
- 金井亀喜「田尻山古墳群」「中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）」 広島県教育委員会 昭和53年（1978）年
- 金井亀喜・小都隆「C・D 地点遺跡」「松ヶ迫遺跡群発掘調査報告—三次工業団地建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査—」 広島県教育委員会・財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和56（1981）年
- 川越哲志「鉄製農具」「弥生時代の鉄器文化」 雄山閣 平成5（1993）年
- 小林行雄・杉原莊介「弥生式土器集成 本編」 東京堂出版 平成元（1989）年
- 佐々木直彦「歳の神遺跡群」「歳の神遺跡群・中出勝負岬墳墓群」 財団法人広島県埋蔵文化財センター 昭和61（1986）年
- 妹尾周三「佐田谷墳墓群」 財団法人広島県埋蔵文化財センター 昭和62（1987）年
- 妹尾周三「4. 安芸地域」「弥生土器の様式と編年—山陽・山陰編—」 木耳社 平成4（1992）年
- 竹広文明・野島永・加藤徹「佐田岬墳墓群（第2次）の調査」「帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 XXIII」 広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室・考古学研究室 平成21（2009）年
- 竹広文明「佐田岬墳墓群（第3次）の調査」「帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 XXIV」 広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室・考古学研究室 平成22（2010）年
- 竹広文明「佐田岬墳墓群（第4次）の調査」「帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 XXV」 広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室・考古学研究室 平成23（2011）年
- 竹広文明「佐田岬墳墓群（第5次）の調査」「帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 XXVI」 広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室・考古学研究室 平成24（2012）年
- 竹広文明「佐田岬墳墓群（第6次）の調査」「帝釈峠遺跡群発掘調査室年報 XXVII」 広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室・考古学研究室 平成25（2013）年
- 中村芳昭・向田裕始「史跡花園遺跡—調査と整備—」 三次市教育委員会 昭和54（1979）年
- 中村芳昭・向田裕始「史跡花園遺跡—第2次調査と整備—」 三次市教育委員会 昭和55（1980）年
- 藤野次史「鏡西谷遺跡の調査」「広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書1」 広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室 平成15（2003）年
- 藤野次史「広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書IV」 広島大学埋蔵文化財調査室 平成19（2007）年
- 道上康仁「奥田大池遺跡」 広島県教育委員会・財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和58（1983）年
- 道上康仁「大判・上定・殿山・三次市大田幸町所在遺跡群の発掘調査—」 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和62（1987）年
- 渡辺貞幸「まとめにかえて—四隅突出型墳丘墓概説—」「四隅突出型墳丘墓と弥生墓制の研究」 島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター 平成19（2007）年

第2表 広島県内出土曲刃鎌観察表

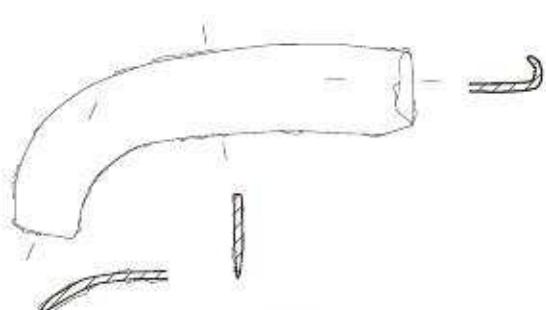
遺物番号	出土遺跡	図版番号	時代	時期	種別	器形	出土地点	法量(cm)				備考
								長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
	跡が平西2号遺跡	第10図	弥生時代	後期初葉	鉄製品	曲刃鎌	貼石埴丘墓東側	123	先端 0.9 基部 3.3	0.2~0.5	420	本文中報告番号5
1	篠利追田遺跡	第11図	弥生時代	後期後葉	鉄製品	曲刃鎌	日塚中位出土	7.7	3.7	0.2	—	報告番号9図
2	和田原D地点遺跡	第11図	弥生時代	後期前半	鉄製品	曲刃鎌	SB24	8.8	2.8	0.2	2249	報告番号SB24-3
3	梨ヶ谷遺跡B地点	第11図	弥生時代	後期後葉	鉄製品	曲刃鎌	第2号墓「主体」	15.6	基部 3.5	—	—	報告番号69
4	梨ヶ谷遺跡B地点	第11図	弥生時代	後期後葉	鉄製品	曲刃鎌	第2号墓「主体」	—	基部 3.2	—	—	報告番号70
5	西本6号遺跡	第11図	弥生時代	後期後葉	鉄製品	曲刃鎌	SB38a床面	6.45	2.65	0.35	12.38	報告番号1056
6	下沖3号遺跡	第11図	弥生時代	後期後葉	鉄製品	曲刃鎌	第3号住居跡の東側斜面	11.5	3.5	0.2	—	報告番号37
7	大久保遺跡	第11図	弥生時代	後期後半	鉄製品	曲刃鎌	第3号住居跡	—	2.8	0.3	—	報告番号48
8	西瀬寺遺跡群D地点	第11図	弥生時代	後期末葉	鉄製品	曲刃鎌	第2号堅穴式石室	15.5	3.0	0.5	—	報告番号9
9	西瀬寺遺跡群D地点	第11図	弥生時代	後期末葉	鉄製品	曲刃鎌	第2号堅穴式石室	12.7	3.0	0.5	—	報告番号10
10	小林遺跡A地点	第11図	弥生時代	後期終末	鉄製品	曲刃鎌	テラス状遺構	5.2	3.2	0.3	—	報告番号49
11	中矢口遺跡	第11図	弥生時代	後期終末	鉄製品	曲刃鎌	SB1	7.2	1.5	0.2	—	報告番号1
12	中矢口遺跡	第11図	弥生時代	後期終末	鉄製品	曲刃鎌	SB2	6.6	2.6	—	—	報告番号2
13	新宮遺跡群	第12図	古墳時代	5世紀代	鉄製品	曲刃鎌	第3号古墳-1号主体部	17	3.3	0.2~0.5	432	報告番号65
14	椎地遺跡	第12図	古墳時代	5世紀代	鉄製品	曲刃鎌	椎地古墳-B主体	20.8	3.2	0.4	—	報告番号28
15	大明城遺跡	第12図	古墳時代	5世紀前半	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-2号主体部	27	基部 2.6	—	127.78	報告番号615
16	四捨貢小原遺跡	第12図	古墳時代	5世紀前半	鉄製品	曲刃鎌	第1号古墳-C主体	19.2	基部 3.1	0.4	—	報告番号25
17	石鏡山古墳群	第12図	古墳時代	5世紀前葉	鉄製品	曲刃鎌	吹越第4号古墳-主体部	13.5	3	0.2~0.3	—	Fig52-報告番号1
18	三ツ城古墳	第12図	古墳時代	5世紀中葉	鉄製品	曲刃鎌	第1号古墳-東側造出部	13	30~40	0.3	—	報告番号31
19	恵下A地点道路	第12図	古墳時代	5世紀中葉	鉄製品	曲刃鎌	造構に伴わない	8	2.7	0.5	—	第99回 報告番号1
20	恵下B地点道路	第12図	古墳時代	5世紀中葉	鉄製品	曲刃鎌	第1号古墳-内部主体	18	3.8	0.2~0.3	—	第99回 報告番号4
21	恵下B地点道路	第12図	古墳時代	5世紀後半	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-内部主体	17.5	0.2~0.3	0.4	—	第99回 報告番号5
22	地蔵堂山遺跡群	第12図	古墳時代	5世紀中葉-後半	鉄製品	曲刃鎌	第1号古墳-内部主体上縁	19.3	2.4	—	—	報告番号10
23	地蔵堂山遺跡群	第12図	古墳時代	5世紀中葉-後半	鉄製品	曲刃鎌	第1号古墳-内部主体上縁	17.5	2.3	—	—	報告番号11
24	可部寺山1号遺跡	第12図	古墳時代	5世紀中葉-後半	鉄製品	曲刃鎌	第3号古墳-埋葬施設	—	—	—	147	報告番号15
25	可部寺山第6号古墳	第12図	古墳時代	5世紀中葉-後半	鉄製品	曲刃鎌	第6号古墳-埋葬施設	16.9	2.3	—	63.4	報告番号13
26	池の内遺跡	第13図	古墳時代	5世紀中葉-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	第5号古墳-主体	17.5	3.4	0.4	—	報告番号4
27	池の内遺跡	第13図	古墳時代	5世紀中葉-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	第4号古墳-主体部	16.9	基部 2.0	0.3	—	報告番号5
28	池の内遺跡	第13図	古墳時代	5世紀中葉-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	第5号古墳-主体部	17	刃部 2.8 基部 2.9	0.4	—	報告番号6
29	諸木遺跡群	第13図	古墳時代	5世紀後半ないし6世紀前半	鉄製品	曲刃鎌	諸木古墳-第1号主体	14.5	2.7	0.4	—	報告番号5
30	金子古墳群	第13図	古墳時代	5世紀後半-6世紀後半	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-内部主体	17.9	—	0.5	—	報告番号20
31	中央山古墳群	第13図	古墳時代	5世紀後半	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-内部主体	16.2	3.6	0.2	—	報告番号3
32	中小田古墳群	第13図	古墳時代	5世紀後半	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-内部主体	8.9	1.8	—	—	第8回-報告番号2
33	城ノ下A地点遺跡	第13図	古墳時代	5世紀後半	鉄製品	曲刃鎌	城ノ下第1号古墳-主体部	7.9	1.6	0.2	—	報告番号90
34	寺山遺跡	第13図	古墳時代	5世紀後半-6世紀前半	鉄製品	曲刃鎌	MT3-主体部	15	刃部 2.2 基部 2.45	0.35	47	報告番号202
35	宮の本第22号古墳	第13図	古墳時代	5世紀後半-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	SK22-1	19	4	—	—	報告番号74
36	月見城遺跡	第13図	古墳時代	5世紀後半-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	古墳群-ST5	16.2	刃部 2.0	—	—	報告番号14
37	月見城遺跡	第13図	古墳時代	5世紀後半-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	古墳群-ST8	14.5	刃部 2.3	—	—	報告番号31
38	空長古墳群	第13図	古墳時代	5世紀末-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-主体部	15.5	基部 2.9	—	—	報告番号5
39	空長古墳群	第13図	古墳時代	5世紀末-6世紀初頭	鉄製品	曲刃鎌	第2号古墳-主体部	16.9	基部 3.3	—	—	報告番号6
40	高峰遺跡	第13図	古墳時代	6世紀後半	鉄製品	曲刃鎌	南区-第1号住居跡	16.2	2.1	0.3	—	報告番号8



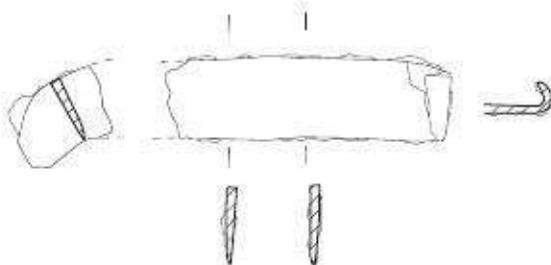
1. 笹利迫田遺跡



2. 和田原D地点遺跡



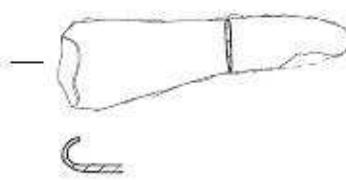
3. 梨ヶ谷遺跡



4. 梨ヶ谷遺跡



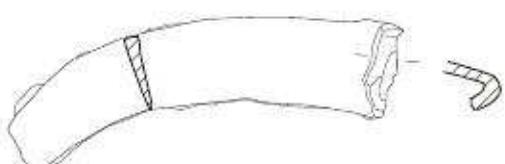
5. 西本6号遺跡



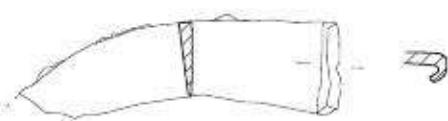
6. 下沖3号遺跡



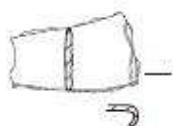
7. 大久保遺跡



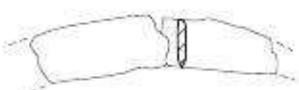
8. 西願寺遺跡群



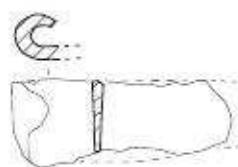
9. 西願寺遺跡群



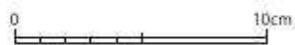
10. 小林遺跡



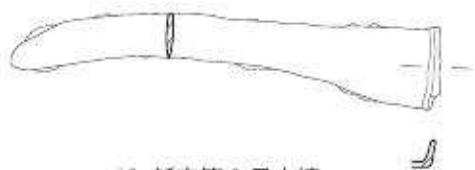
11. 中矢口遺跡



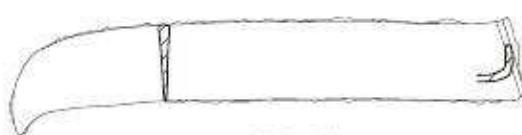
12. 中矢口遺跡



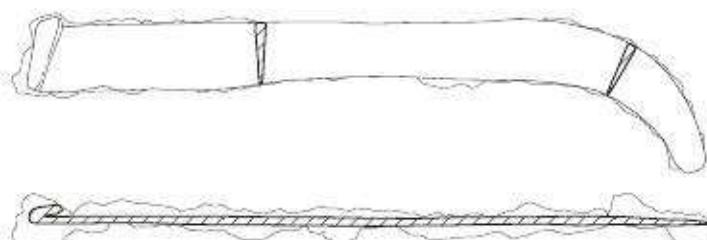
第11図 広島県内出土曲刀鎌（弥生時代）（1:3）



13. 新宮第3号古墳



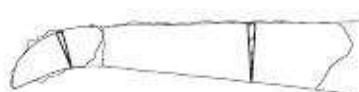
14. 権地古墳



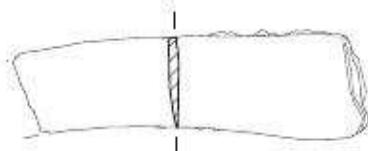
15. 大明地遺跡



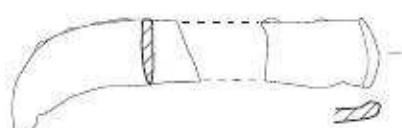
16. 四拾貫小原遺跡



17. 石鎚山古墳群



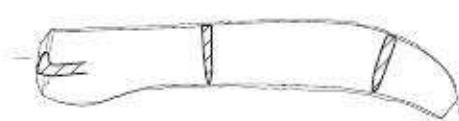
18. 三ツ城古墳



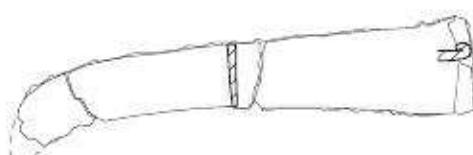
19. 恵下A地点遺跡



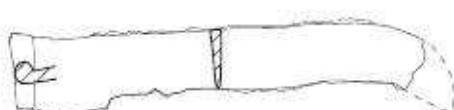
20. 恵下B地点遺跡



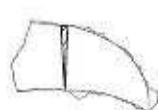
21. 恵下B地点遺跡



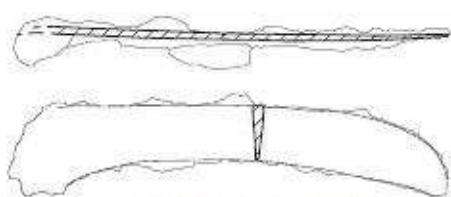
22. 地藏堂山遺跡群



23. 地藏堂山遺跡群



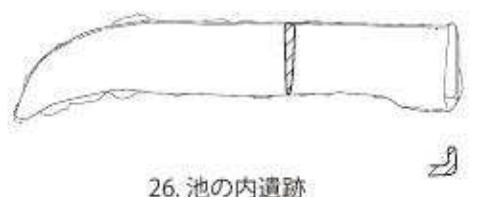
24. 可部寺山1号遺跡



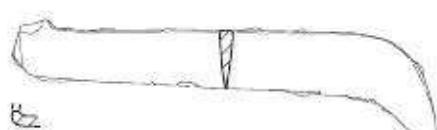
25. 可部寺山第6号古墳



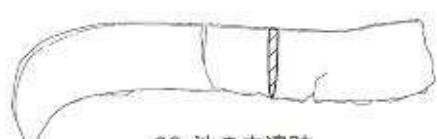
第12図 広島県内出土曲刀鎌（古墳時代1）（1：3）



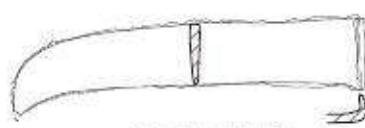
26. 池の内遺跡



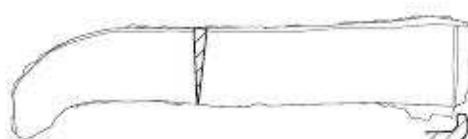
27. 池の内遺跡



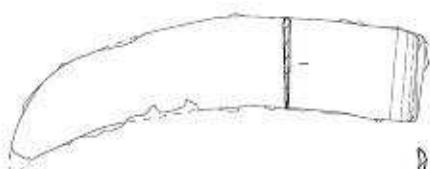
28. 池の内遺跡



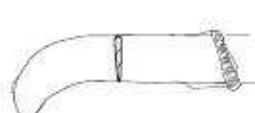
29. 諸木遺跡群



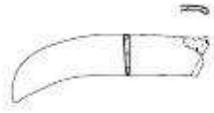
30. 金子古墳群



31. 中央山古墳群



32. 中小田古墳群



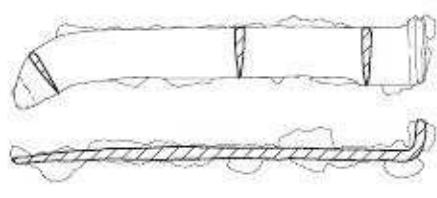
33. 城ノ下 A 地点遺跡



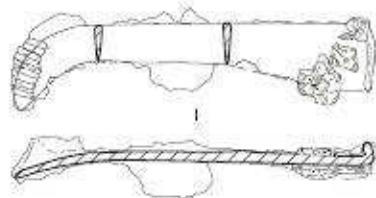
34. 寺山遺跡



35. 宮の本第 22 号古墳



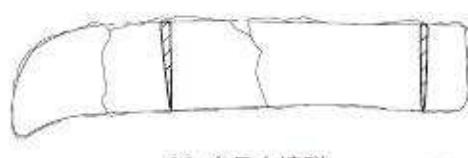
36. 月見城遺跡



37. 月見城遺跡



38. 空長古墳群



39. 空長古墳群



40. 高峰遺跡



第13図 広島県内出土曲刀鎌（古墳時代2）（1：3）

#### 広島県内出土曲刃鎌参考文献(図番号順)

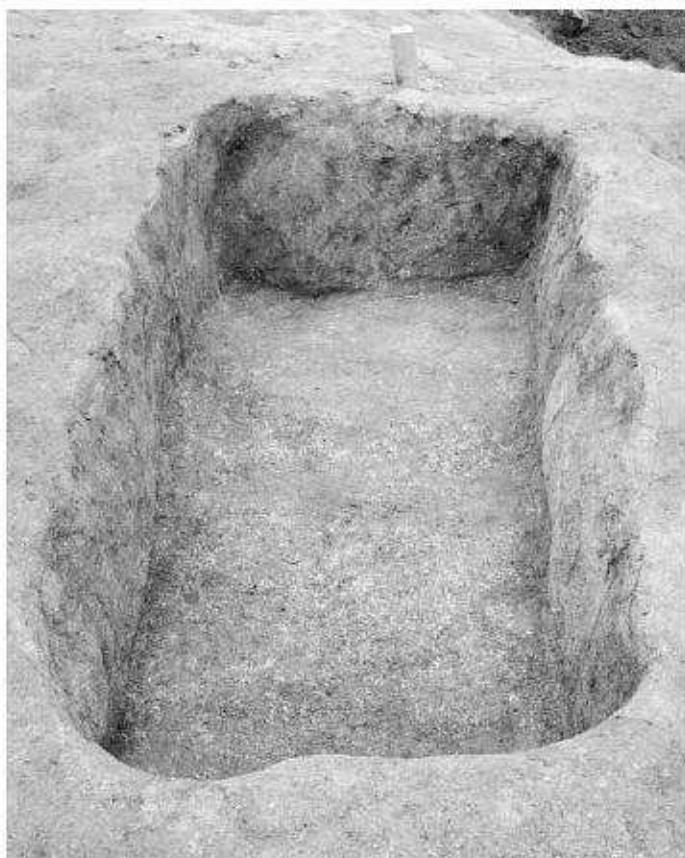
1. 銀治益生『笠利追田遺跡発掘調査報告書』 財團法人広島県埋蔵文化財センター 昭和60(1985)年
2. 松井和幸他『和田原D地点遺跡発掘調査報告書』 簡易保険事業団・庄原市教育委員会・財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成11(1999)年
- 3・4. 荒川正己『梨ヶ谷遺跡発掘調査報告』 財團法人広島市歴史科学教育事業団 平成10(1998)年
5. 篠原芳秀他『西本6号遺跡』 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成9(1997)年
6. 若島一則「下沖3号遺跡」「一般県道原田五日市線(石内バイパス)道路改良工事事業地内遺跡群発掘調査報告」 広島市教育委員会 昭和63(1988)年
7. 松岡美緒『大久保遺跡発掘調査報告』 財團法人広島市歴史科学教育事業団 平成4(1992)年
- 8・9. 金井亀喜『西願寺遺跡群』 広島市教育委員会 昭和49(1974)年
10. 岡田秀明『小林遺跡A・B地点遺跡発掘調査報告』 広島市教育委員会 平成2(1990)年
- 11・12. 桧垣栄治『中矢口遺跡発掘調査報告』 広島市教育委員会 昭和55(1980)年
13. 山手良伸『新宮遺跡群発掘調査報告書』 八千代町教育委員会 平成12(2000)年
14. 桧垣栄治「権地遺跡」「九郎杖遺跡・権地遺跡発掘調査報告」 広島市教育委員会 昭和59(1984)年
15. 妹尾周三他「大明地遺跡」「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(IV)」 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和62(1987)年
16. 川越哲志他『四拾貫小原』 四拾貫小原発掘調査団 昭和44(1969)年
17. 高倉浩一『石鏡山古墳群』 広島県教育委員会 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和56(1981)年
18. 石井隆博『史跡三ツ城古墳発掘調査報告書』 財團法人東広島市教育文化振興事業団 平成16(2004)年
- 19～23. 金井亀喜「地蔵堂山遺跡群」「恵下山遺跡群」「高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告」 広島県教育委員会 昭和52(1977)年
24. 高下洋一『可部寺山1号遺跡』 財團法人広島市文化財団 平成16(2004)年
25. 葉杖哲也他「可部寺山第6号古墳」「寺山城跡」 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 平成16(2004)年
- 26～28. 若島一則他「池の内遺跡発掘調査報告」 広島市教育委員会 昭和60(1985)年
29. 金井亀喜「諸木古墳」「高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告」 広島県教育委員会 昭和52(1977)年
30. 小都隆他「金子古墳群」「中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告(3)」 広島県教育委員会 昭和57(1982)年
31. 河瀬正利「中央山古墳群の発掘調査」 広島大学文学部考古学研究室 昭和53(1978)年
32. 潮見浩「中小田古墳群」 広島市教育委員会 昭和55(1980)年
33. 若島一則「城ノ下A地点遺跡発掘調査報告」 財團法人広島市歴史科学教育事業団 平成3(1991)年
34. 高下洋一『寺山遺跡発掘調査報告』 財團法人広島市歴史科学教育事業団 平成9(1997)年
35. 梅本健治「宮の本第22号古墳」「中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(29)」 財團法人広島県教育事業団 平成25(2013)年
- 36・37. 藤田広幸「月見城遺跡」 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター 昭和62(1987)年
- 38・39. 柳川康彦他『空長古墳群発掘調査報告書』 広島市教育委員会 昭和53(1978)年
40. 桑田俊明「高峰遺跡」「綠岩古墳」 広島県教育委員会 昭和58(1983)年

図 版

図版 1



a. 貼石墳丘墓検出状況（南南西から）



図版2



a. 貼石墳丘墓完掘（南から）



b. 貼石墳丘墓東西土層断面（南西から）



c. 遺物出土状況①（東から）



d. 遺物出土状況②（北から）



e. 遺物出土状況③（北から）

図版 3



a. SK2検出状況（東南東から）



c. SK2完掘（南南西から）



d. SK2完掘状況（南東から）

図版 4



a. SK5完掘（西北西から）



b. SK6完掘（北から）



c. SK7完掘（西北西から）



d. SK8完掘（西から）



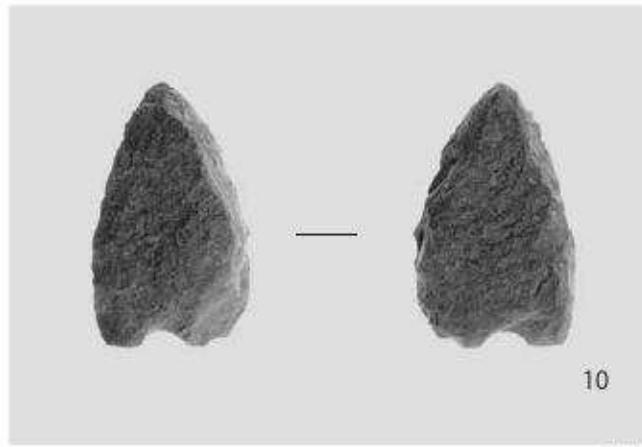
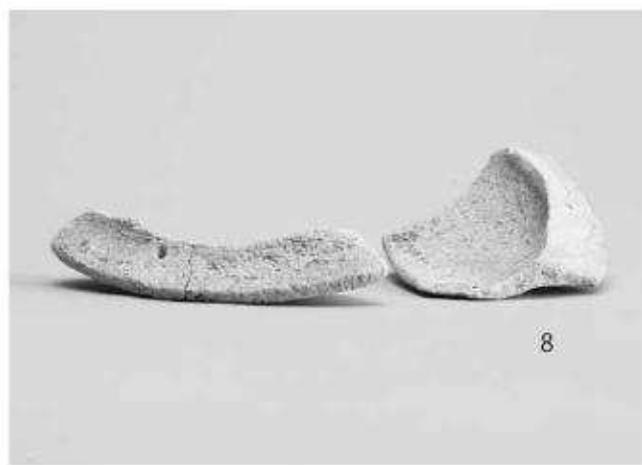
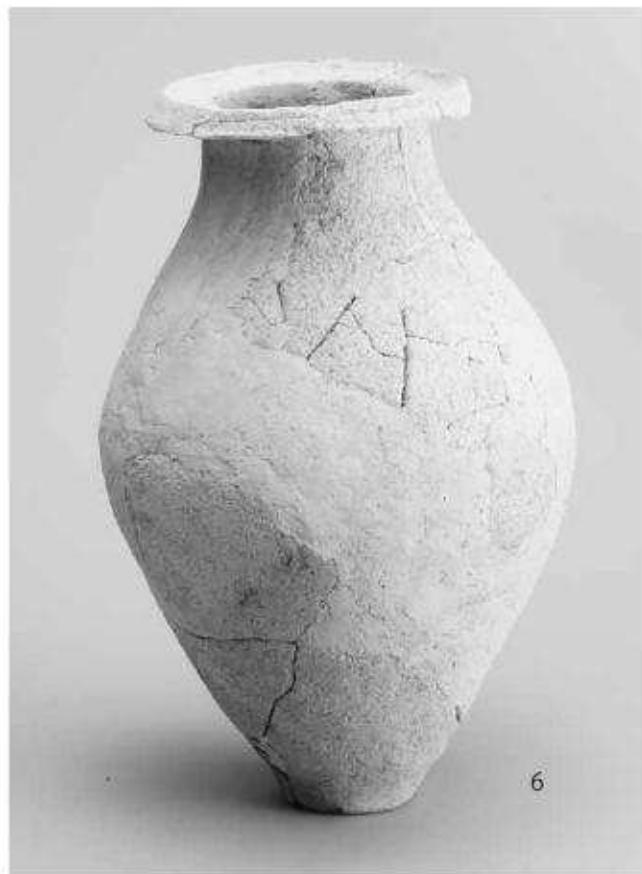
e. 木棺墓群完掘（西から）

図版 5



出土遺物 1

図版 6



出土遺物 2

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	じんがひらにしにごういせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	陣が平西2号遺跡発掘調査報告書						
副書名	(仮) Fマンション敷地造成工事に係る発掘調査						
卷次							
シリーズ名	東広島市教育委員会文化財調査報告書						
シリーズ番号	第51集						
編集者名	植田 広・杉原弥生						
編集機関	東広島市教育委員会(東広島市出土文化財管理センター)						
所在地	〒739-2201 広島県東広島市河内町中河内651番7 TEL 082-420-7890						
発行機関	東広島市教育委員会						
所在地	〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号						
発行年月日	西暦2015年3月27日						
所取遺跡	ふりがな所在地	コード 市町村	北緯 度	東経 度	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
じんがひらにし 陣が平西 にこういせき 2号遺跡	ひがしうらしま 東広島市 西条下見五丁目	34212	958 34° 24' 25'	132° 43' 06"	20140203 ～ 20140320	350	宅地造成
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
じんがひらにし 陣が平西 にこういせき 2号遺跡	墳墓	弥生時代	貼石墳丘墓1基 (埋葬主体:木棺墓1基) テラス状の墓域1カ所 (墓域内:木棺墓4基) 石蓋土坑墓1基 土坑墓1基 性格不明土坑2基 溝状遺構1条	弥生土器 石製品(石鐵) 鐵製品(鐵鎌)	東広島市内 で初めて貼 石墳丘墓を 確認		
<p><b>要約</b></p> <p>陣が平西2号遺跡の所在する西条盆地は、標高200m前後の山間盆地であり、瀬戸内(山陽)側の大田川水系と日本海(山陰)側の江の川水系を主流となし、中国地方の東西を結ぶ交通の要衝として古来より重要な位置を占めている。また、低平な地形が発達しており、広島県内でも有数な遺跡の密集地である。遺跡は、標高230m前後の独立した丘陵上に立地する。堆積土の主体は花崗岩風化土(マサ土)からなる。調査の結果、主な遺構は、貼石墳丘墓や木棺墓群などを検出した。主な遺物は、弥生土器、石製品(石鐵)、鐵製品(鐵鎌)などの墳墓に供獻されたと考えられる遺物が出土した。特に、貼石墳丘墓は、西条盆地では初の発見例となり、江の川上流の三次市や庄原市からみつかっている四隅突出型墳丘墓や貼石方形墳丘墓などの影響を受け、構築されたものと考えられる。今回の調査により、弥生時代における三次・庄原地域との交流を考えていく上で、貴重な資料を提供してくれたものと考えられる。</p>							

東広島市教育委員会文化財調査報告書第51集  
**陣が平西2号遺跡発掘調査報告書**

発行日 平成27（2015）年3月27日  
編集・発行 東広島市教育委員会  
〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号  
印 刷 大東印刷株式会社  
〒723-0052 広島県三原市皆実4丁目5-30